

厚生労働大臣 殿

開設者名
公立大学法人福島県立医科大学
理事長 竹之下 誠一

福島県立医科大学附属病院の業務に関する報告について

標記について、医療法（昭和 23 年法律第 205 号）第 12 条の 3 第 1 項及び医療法施行規則（昭和 23 年厚生省令第 50 号）第 9 条の 2 の 2 の第 1 項の規定に基づき、平成 29 年度の業務に関して報告します。

記

1 開設者の住所及び氏名

住 所	〒960-1295 福島県福島市光が丘1番地
氏 名	公立大学法人福島県立医科大学

(注) 開設者が法人である場合は、「住所」欄には法人の主たる事務所の所在地を、「氏名」欄には法人の名称を記入すること。

2 名 称

公立大学法人福島県立医科大学附属病院

3 所在の場所

〒960-1295 福島県福島市光が丘1番地	電話(024)547-1021
---------------------------	-----------------

4 診療科名

4-1 標榜する診療科名の区分

1 医療法施行規則第六条の四第一項の規定に基づき、有すべき診療科名すべてを標榜 2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定により読み替えられた同条第一項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として、十以上の診療科名を標榜
--

(注) 上記のいずれかを選択し、番号に○印を付けること。

4-2 標榜している診療科名

(1) 内科

内科	有
内科と組み合わせた診療科名等 ①循環器内科 ②血液内科 ③消化器内科 ④リウマチ内科 ⑤神経内科 ⑥呼吸器内科 ⑦漢方内科 ⑧腫瘍内科 ⑨小児腫瘍内科 ⑩甲状腺・内分泌内科	
診療実績	

(注) 1 「内科と組み合わせた診療科名等」欄については、標榜している診療科名の番号に○印を付けること。

2 「診療実績」欄については、「内科と組み合わせた診療科名等」欄において、標榜していない診療科がある場合、その診療科で提供される医療を、他の診療科で提供している旨を記載すること。

(2) 外科

外科	有
外科と組み合わせた診療科名 ①消化器外科 ②呼吸器外科 ③乳腺外科 ④小児外科 ⑤心臓血管外科 ⑥形成外科	
診療実績	

- (注) 1 「外科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名の番号に○印を付けること。
2 「診療実績」欄については、「外科」「呼吸器外科」「消化器外科」「乳腺外科」「心臓外科」「血管外科」「心臓血管外科」「内分泌外科」「小児外科」のうち、標榜していない科がある場合は、他の標榜科での当該医療の提供実績を記載すること（「心臓血管外科」を標榜している場合は、「心臓外科」「血管外科」の両方の診療を提供しているとして差し支えないこと）。

(3) その他の標榜していることが求められる診療科名

①精神科 ②小児科 ③整形外科 ④脳神経外科 ⑤皮膚科 ⑥泌尿器科 ⑦産婦人科 ⑧産科 ⑨婦人科 ⑩眼科 ⑪耳鼻咽喉科 ⑫放射線科 ⑬放射線診断科 ⑭放射線治療科 ⑮麻酔科 ⑯救急科

- (注) 標榜している診療科名の番号に○印を付けること。

(4) 歯科

歯科	有
歯科と組み合わせた診療科名 ①歯科口腔外科	
歯科の診療体制	

- (注) 1 「歯科」欄及び「歯科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名の番号に○印を付けること。
2 「歯科の診療体制」欄については、医療法施行規則第六条の四第五項の規定により、標榜している診療科名として「歯科」を含まない病院については記入すること。

(5) (1)～(4)以外でその他に標榜している診療科名

病理診断科、リハビリテーション科

- (注) 標榜している診療科名について記入すること。

5 病床数

精神	感染症	結核	療養	一般	合計
49床	2床	14床	1床	713床	778床

6 医師、歯科医師、薬剤師、看護師及び准看護師、管理栄養士その他の従業者の員数

職 種	常 勤	非常勤	合 計	職 種	員 数	職 種	員 数
医 師	447人	180人	535.6人	看 護 補 助 者	85人	診療エックス線技師	0人
歯 科 医 師	4人	8人	8.9人	理 学 療 法 士	15人	臨床検査 衛生検査	臨床検査技師 80人
薬 剤 師	52人	1人	52.6人	作 業 療 法 士	6人		衛生検査技師 0人
保 健 師	0人	0人	0人	視 能 訓 練 士	10人		そ の 他 0人
助 産 師	39人	0人	39人	義 肢 装 具 士	0人	あん摩マッサージ指圧師	0人
看 護 師	765人	25人	780.1人	臨 床 工 学 士	21人	医療社会事業従事者	12人
准 看 護 師	0人	3人	1.6人	栄 養 士	0人	その他の技術員	17人
歯 科 衛 生 士	3人	1人	3.4人	歯 科 技 工 士	0人	事務職員	136人
管理栄養士	10人	0人	10人	診療放射線技師	52人	その他の職員	43人

- (注) 1 報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること。
 2 栄養士の員数には、管理栄養士の員数は含めないで記入すること。
 3 「合計」欄には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下2位を切り捨て、小数点以下1位まで算出して記入すること。それ以外の欄には、それぞれの員数の単純合計員数を記入すること。

7 専門の医師数

専門医名	人 数	専門医名	人 数
総合内科専門医	39人	眼科専門医	10人
外科専門医	48.9人	耳鼻咽喉科専門医	12人
精神科専門医	4人	放射線科専門医	10人
小児科専門医	30人	脳神経外科専門医	9人
皮膚科専門医	4人	整形外科専門医	21人
泌尿器科専門医	6人	麻酔科専門医	9人
産婦人科専門医	13人	救急科専門医	8人
		合 計	221.9人

- (注) 1 報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること。
 2 人数には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下1位を切り捨て、整数で算出して記入すること。

8 管理者の医療に係る安全管理の業務の経験

管理者名 () 任命年月日 平成 年 月 日

9 前年度の平均の入院患者、外来患者及び調剤の数

歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科の前年度の平均の入院患者及び外来患者の数

	歯科等以外	歯科等	合計
1日当たり平均入院患者数	602.3人	8.9人	611.2人
1日当たり平均外来患者数	1416.9人	35.6人	1452.5人
1日当たり平均調剤数	842.62剤		
必要医師数	147人		
必要歯科医師数	4人		
必要薬剤師数	21人		
必要(准)看護師数	355人		

(注)1 「歯科等」欄には、歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科を受診した患者数を、「歯科等以外」欄にはそれ以外の診療料を受診した患者数を記入すること。

2 入院患者数は、前年度の各科別の入院患者延数(毎日の24時現在の在院患者数の合計)を暦日で除した数を記入すること。

3 外来患者数は、前年度の各科別の外来患者延数をそれぞれ病院の年間の実外来診療日数で除した数を記入すること。

4 調剤数は、前年度の入院及び外来別の調剤延数をそれぞれ暦日及び実外来診療日数で除した数を記入すること。

5 必要医師数、必要歯科医師数、必要薬剤師数及び必要(准)看護師数については、医療法施行規則第二十二條の二の算定式に基づき算出すること。

10 施設の構造設備

施設名	床面積	主要構造	設備概要			
集中治療室	282.9m ²	鉄筋コンクリート	病床数	12床	心電計	<input checked="" type="checkbox"/> ・無
			人工呼吸装置	<input checked="" type="checkbox"/> ・無	心細動除去装置	<input checked="" type="checkbox"/> ・無
			その他の救急蘇生装置	<input checked="" type="checkbox"/> ・無	ペースメーカー	<input checked="" type="checkbox"/> ・無
無菌病室等	[固定式の場合] 床面積: 271.2m ² [移動式の場合] 台数: 4台		病床数: 24床			
医薬品情報管理室	[専用室の場合] 床積 42.3m ² [共用室の場合] 共用する室名					
化学検査室	938.1m ²	鉄筋コンクリート	(主な設備)			
細菌検査室	86.2m ²	鉄筋コンクリート	(主な設備)			
病理検査室	25.7m ²	鉄筋コンクリート	(主な設備)			
病理解剖室	121.4m ²	鉄筋コンクリート	(主な設備)			
研究室	114.5m ²	鉄筋コンクリート	(主な設備)			
講義室	522.7m ²	鉄筋コンクリート	室数	2室	収容定員	459人
図書室	1,954m ²	鉄筋コンクリート	室数	4室	蔵書数	22万2,000冊程度

(注) 1 主要構造には、鉄筋コンクリート、簡易耐火、木造等の別を記入すること。

2 主な設備は、主たる医療機器、研究用機器、教育用機器を記入すること。

11 紹介率及び逆紹介率の前年度の平均値

紹介率	88.6%	逆紹介率	65.3%
算出根拠	A: 紹介患者の数	10,943人	
	B: 他の病院又は診療所に紹介した患者の数	9,122人	
	C: 救急用自動車によって搬入された患者の数	1,429人	
	D: 初診の患者の数	13,960人	

(注) 1 「紹介率」欄は、A、Cの和をDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。

2 「逆紹介率」欄は、BをDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。

3 A、B、C、Dは、それぞれの前年度の延数を記入すること。

12 監査委員会の委員名簿及び委員の選定理由(注)

氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	利害関係	委員の要件 該当状況
佐藤 武寿	福島県医師会	○	医療に係る安全管理に関する識見を有する者	無	1
田中 明	国立大学法人 福島大学		医療を受ける者、その他 医療従事者以外の者	無	2
渡辺 慎太郎	弁護士		法律に関する識見を有する者	無	1

(注) 「委員の要件該当状況」の欄は、次の1~3のいずれかを記載すること。

1. 医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者
2. 医療を受ける者その他の医療従事者以外の者(1.に掲げる者を除く。)
3. その他

13 監査委員会の委員名簿及び委員の選定理由の公表の状況

委員名簿の公表の有無	有
委員の選定理由の公表の有無	有
公表の方法 病院ホームページにて公表している。	

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

2 承認を受けている先進医療の種類(注1)及び取扱患者数

先進医療の種類	取扱患者数
重症低血糖発作を合併するインスリン依存症糖尿病に対する脳死および心停止ドナーからの膵島移植	0人
11C標識メチオニンを用いたポジトロン断層撮影による診断 初発の神経膠腫が疑われるもの(生検又は手術が予定されている患者に係るものに限る。)	0人
11C標識メチオニンを用いたポジトロン断層撮影による再発の診断 頭頸部腫瘍(原発性若しくは転移性脳腫瘍(放射線治療を実施した日から起算して半年以上経過した患者に係るものに限る。))又は上咽頭、頭蓋骨その他脳に近接する臓器に発生する腫瘍(放射線治療を実施した日から起算して半年以上経過した患者に係るものに限る。))であり、かつ、再発が疑われるものに限る。)	0人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人

(注)1 「先進医療の種類」欄には、厚生労働大臣の定める先進医療及び施設基準(平成二十年厚生労働省告示 第百二十九号)第三各号に掲げる先進医療について記入すること。

(注)2 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

3 その他の高度の医療

医療技術名	取扱患者数	人
当該医療技術の概要 該当なし		
医療技術名	取扱患者数	人
当該医療技術の概要		
医療技術名	取扱患者数	人
当該医療技術の概要		
医療技術名	取扱患者数	人
当該医療技術の概要		
医療技術名	取扱患者数	人
当該医療技術の概要		
医療技術名	取扱患者数	人
当該医療技術の概要		
医療技術名	取扱患者数	人
当該医療技術の概要		
医療技術名	取扱患者数	人
当該医療技術の概要		
医療技術名	取扱患者数	人
当該医療技術の概要		

(注) 1 当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば、前年度の実績を記入すること。

(注) 2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として十以上の診療科名を標榜する病院については、他の医療機関での実施状況を含め、当該医療技術が極めて先駆的であることについて記入すること(当該医療が先進医療の場合についても記入すること)。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

4 指定難病についての診療

患者数	患者数	疾患名	患者数	疾患名	患者数
3	56	球脊髄性筋萎縮症	34	ベーチェット病	34
20	57	筋萎縮性側索硬化症	35	特発性拡張型心筋症	35
3	58	脊髄性筋萎縮症	23	肥大型心筋症	23
0	59	原発性側索硬化症	1	拘束型心筋症	1
3	60	進行性核上性麻痺	27	再生不良性貧血	27
115	61	パーキンソン病	23	自己免疫性溶血性貧血	23
2	62	大脳皮質基底核変性症	4	発作性夜間ヘモグロビン尿症	4
2	63	ハンチントン病	44	特発性血小板減少性紫斑病	44
0	64	神経有棘赤血球症	5	血栓性血小板減少性紫斑病	5
1	65	シャルコー・マリー・トゥース病	0	原発性免疫不全症候群	0
28	66	重症筋無力症	0	IgA腎症	0
0	67	先天性筋無力症候群	0	多発性嚢胞腎	0
35	68	多発性硬化症/視神経脊髄炎	24	黄色靭帯骨化症	24
3	69	慢性炎症性脱髄性多発神経炎/多巣性運動ニューロパチー	33	後縦靭帯骨化症	33
4	70	封入体筋炎	0	広範脊柱管狭窄症	0
0	71	クドウ・深瀬症候群	0	特発性大腿骨頭壊死症	0
6	72	多系統萎縮症	0	下垂体性ADH分泌異常症	0
15	73	脊髄小脳変性症(多系統萎縮症を除く。)	0	下垂体性TSH分泌亢進症	0
0	74	ライソゾーム病	0	下垂体性PRL分泌亢進症	0
0	75	副腎白質ジストロフィー	5	クッシング病	5
3	76	ミトコンドリア病	0	下垂体性ゴナドトロピン分泌亢進症	0
22	77	もやもや病	0	下垂体性成長ホルモン分泌亢進症	0
0	78	プリオン病	0	下垂体前葉機能低下症	0
0	79	亜急性硬化性全脳炎	0	家族性高コレステロール血症(ホモ接合体)	0
0	80	進行性多巣性白質脳症	0	甲状腺ホルモン不応症	0
0	81	HTLV-1関連脊髄症	0	先天性副腎皮質酵素欠損症	0
0	82	特発性基底核石灰化症	0	先天性副腎低形成症	0
0	83	全身性アミロイドーシス	4	アジソン病	4
0	84	ウルリッヒ病	84	サルコイドーシス	84
0	85	遠位型ミオパチー	12	特発性間質性肺炎	12
0	86	ベスレムミオパチー	19	肺動脈性肺高血圧症	19
0	87	自己食空胞性ミオパチー	2	肺静脈閉塞症/肺毛細血管腫症	2
0	88	シュワルツ・ヤンペル症候群	0	慢性血栓性肺高血圧症	0
18	89	神経線維腫症	0	リンパ脈管筋腫症	0
48	90	天疱瘡	0	網膜色素変性症	0
1	91	表皮水疱症	0	パッド・キアリ症候群	0
0	92	膿疱性乾癬(汎発型)	0	特発性門脈圧亢進症	0
0	93	スティーヴンス・ジョンソン症候群	31	原発性胆汁性肝硬変	31
3	94	中毒性表皮壊死症	0	原発性硬化性胆管炎	0
7	95	高安動脈炎	23	自己免疫性肝炎	23
0	96	巨細胞性動脈炎	23	クローン病	23
11	97	結節性多発動脈炎	51	潰瘍性大腸炎	51
16	98	顕微鏡的多発血管炎	0	好酸球性消化管疾患	0
16	99	多発血管炎性肉芽腫症	0	慢性特発性偽性腸閉塞症	0
10	100	好酸球性多発血管炎性肉芽腫症	0	巨大膀胱短小結腸腸管蠕動不全症	0
4	101	悪性関節リウマチ	0	腸管神経節細胞減少症	0
3	102	パージャール病	0	ルピンシュタイン・テイビ症候群	0
0	103	原発性抗リン脂質抗体症候群	0	CFC症候群	0
130	104	全身性エリテマトーデス	0	コステロ症候群	0
81	105	皮膚筋炎/多発性筋炎	0	チャージ症候群	0
13	106	全身性強皮症	0	クリオピリン関連周期熱症候群	0
12	107	混合性結合組織病	1	全身型若年性特発性関節炎	1
97	108	シェーグレン症候群	0	TNF受容体関連周期性症候群	0
16	109	成人スチル病	0	非典型溶血性尿毒症症候群	0
1	110	再発性多発軟骨炎	0	ブラウ症候群	0

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

4 指定難病についての診療

	疾患名	患者数		疾患名	患者数
111	先天性ミオパチー	1	161	家族性良性慢性天疱瘡	0
112	マリネスコ・シェーグレン症候群	0	162	類天疱瘡(後天性表皮水疱症を含む。)	39
113	筋ジストロフィー	10	163	特発性後天性全身性無汗症	0
114	非ジストロフィー性ミオトニー症候群	0	164	眼皮膚白皮症	0
115	遺伝性周期性四肢麻痺	0	165	肥厚性皮膚骨膜炎	0
116	アトピー性脊髄炎	0	166	弾性線維性仮性黄色腫	2
117	脊髄空洞症	5	167	マルファン症候群	6
118	脊髄髄膜瘤	4	168	エーラス・ダンロス症候群	0
119	アイザックス症候群	0	169	メンケス病	0
120	遺伝性ジストニア	0	170	オクシピタル・ホーン症候群	0
121	神経フェリチン症	0	171	ウィルソン病	0
122	脳表ヘモジデリン沈着症	0	172	低ホスファターゼ症	0
123	禿頭と変形性脊椎症を伴う常染色体劣性 白質脳症	0	173	VATER症候群	0
124	皮質下梗塞と白質脳症を伴う常染色体優 性脳動脈症	0	174	那須・ハコラ病	0
125	神経軸索スフェロイド形成を伴う遺伝性び まん性白質脳症	0	175	ウィーバー症候群	0
126	ペリー症候群	0	176	コフィン・ローリー症候群	0
127	前頭側頭葉変性症	1	177	有馬症候群	0
128	ピッカースタッフ脳幹脳炎	0	178	モワット・ウィルソン症候群	0
129	痙攣重積型(二相性)急性脳症	0	179	ウィリアムズ症候群	0
130	先天性無痛無汗症	0	180	ATR-X症候群	0
131	アレキサンダー病	0	181	クルーゾン症候群	0
132	先天性核上性球麻痺	0	182	アペール症候群	0
133	メビウス症候群	0	183	ファイファー症候群	0
134	中隔視神経形成異常症/ドモルシア症候群	1	184	アントレー・ピクスラー症候群	0
135	アイカルディ症候群	0	185	コフィン・シリス症候群	0
136	片側巨脳症	0	186	ロスムンド・トムソン症候群	0
137	限局性皮質異形成	0	187	歌舞伎症候群	1
138	神経細胞移動異常症	0	188	多脾症候群	2
139	先天性大脳白質形成不全症	0	189	無脾症候群	1
140	ドラベ症候群	0	190	鰓耳腎症候群	0
141	海馬硬化を伴う内側側頭葉てんかん	0	191	ウェルナー症候群	0
142	ミオクロニー欠神てんかん	0	192	コケイン症候群	0
143	ミオクロニー脱力発作を伴うてんかん	0	193	ブラダー・ウイリ症候群	0
144	レノックス・ガストー症候群	1	194	ソトス症候群	0
145	ウエスト症候群	0	195	ヌーナン症候群	0
146	大田原症候群	0	196	ヤング・シンプソン症候群	0
147	早期ミオクロニー脳症	0	197	1p36欠失症候群	0
148	遊走性焦点発作を伴う乳児てんかん	0	198	4p欠失症候群	0
149	片側痙攣・片麻痺・てんかん症候群	0	199	5p欠失症候群	0
150	環状20番染色体症候群	0	200	第14番染色体父親性ダイソミー症候群	0
151	ラスムッセン脳炎	0	201	アンジェルマン症候群	0
152	PCDH19関連症候群	0	202	スミス・マギニス症候群	0
153	難治頻回部分発作重積型急性脳炎	0	203	22q11.2欠失症候群	0
154	徐波睡眠期持続性棘徐波を示すてんかん 性脳症	0	204	エマヌエル症候群	0
155	ランドウ・クレフナー症候群	0	205	脆弱X症候群関連疾患	0
156	レット症候群	3	206	脆弱X症候群	0
157	スタージ・ウェーバー症候群	0	207	総動脈幹遺残症	0
158	結節性硬化症	14	208	修正大血管転位症	0
159	色素性乾皮症	0	209	完全大血管転位症	6
160	先天性魚鱗癬	0	210	単心室症	7

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

4 指定難病についての診療

	疾患名	患者数		疾患名	患者数
211	左心低形成症候群	2	259	レシチンコレステロールアシルトランスフェラーゼ欠損症	0
212	三尖弁閉鎖症	1	260	シトステロール血症	0
213	心室中隔欠損を伴わない肺動脈閉鎖症	0	261	タンジール病	0
214	心室中隔欠損を伴う肺動脈閉鎖症	0	262	原発性高カイロミクロン血症	0
215	ファロー四徴症	9	263	脳腫黄色腫症	0
216	両大血管右室起始症	1	264	無βリポタンパク血症	0
217	エプスタイン病	2	265	脂肪萎縮症	0
218	アルポート症候群	0	266	家族性地中海熱	8
219	ギャロウェイ・モフト症候群	0	267	高IgD症候群	0
220	急速進行性糸球体腎炎	16	268	中條・西村症候群	0
221	抗糸球体基底膜腎炎	1	269	化膿性無菌性関節炎・壊疽性膿皮症・アクネ症候群	0
222	一次性ネフローゼ症候群	0	270	慢性再発性多発性骨髄炎	0
223	一次性膜性増殖性糸球体腎炎	0	271	強直性脊椎炎	3
224	紫斑病性腎炎	0	272	進行性骨化性線維異形成症	0
225	先天性腎性尿崩症	0	273	肋骨異常を伴う先天性側弯症	0
226	間質性膀胱炎(ハンナ型)	0	274	骨形成不全症	1
227	オスラー病	4	275	タナトフォリック骨異形成症	0
228	閉塞性細気管支炎	1	276	軟骨無形成症	0
229	肺胞蛋白症(自己免疫性又は先天性)	0	277	リンパ管腫症/ゴーハム病	0
230	肺胞低換気症候群	1	278	巨大リンパ管奇形(頸部顔面病変)	0
231	α1-アンチトリプシン欠乏症	0	279	巨大静脈奇形(頸部口咽頭びまん性病変)	0
232	カーニー複合	0	280	巨大動脈奇形(頸部顔面又は四肢病変)	0
233	ウォルフラム症候群	0	281	クリッペル・トレノネー・ウェーバー症候群	0
234	ペルオキシソーム病(副腎白質ジストロフィーを除く。)	0	282	先天性赤血球形成異常性貧血	0
235	副甲状腺機能低下症	45	283	後天性赤芽球癆	0
236	偽性副甲状腺機能低下症	0	284	ダイヤモンド・ブラックファン貧血	0
237	副腎皮質刺激ホルモン不応症	0	285	ファンconi貧血	0
238	ビタミンD抵抗性くる病/骨軟化症	3	286	遺伝性鉄芽球性貧血	0
239	ビタミンD依存性くる病/骨軟化症	2	287	エプスタイン症候群	0
240	フェニルケトン尿症	0	288	自己免疫性出血病XIII	0
241	高チロシン血症1型	0	289	クロンカイト・カナダ症候群	0
242	高チロシン血症2型	0	290	非特異性多発性小腸潰瘍症	0
243	高チロシン血症3型	0	291	ヒルシュスブルング病(全結腸型又は小腸)	0
244	メーブルシロップ尿症	0	292	総排泄腔外反症	0
245	プロピオン酸血症	0	293	総排泄腔遺残	3
246	メチルマロン酸血症	0	294	先天性横隔膜ヘルニア	2
247	イソ吉草酸血症	0	295	乳幼児肝巨大血管腫	0
248	グルコーストランスポーター1欠損症	0	296	胆道閉鎖症	6
249	グルタル酸血症1型	0	297	アラジール症候群	1
250	グルタル酸血症2型	0	298	遺伝性膝炎	0
251	尿素サイクル異常症	2	299	嚢胞性線維症	0
252	リジン尿性蛋白不耐症	0	300	IgG4関連疾患	28
253	先天性葉酸吸収不全	0	301	黄斑ジストロフィー	7
254	ポルフィリン症	0	302	レーベル遺伝性視神経症	0
255	複合カルボキシラーゼ欠損症	0	303	アッシャー症候群	0
256	筋型糖原病	0	304	若年発症型両側性感音難聴	0
257	肝型糖原病	0	305	遅発性内リンパ水腫	0
258	ガラクトースー1-リン酸ウリジルトランスフェラーゼ欠損症	0	306	好酸球性副鼻腔炎	19

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

4 指定難病についての診療

	疾患名	患者数		疾患名	患者数
307	カナバン病	0	319	セピアブテリン還元酵素(SR)欠損症	0
308	進行性白質脳症	0	320	先天性グリコシルホスファチジルイノシトール(GPI)欠損症	0
309	進行性ミオクローヌステんかん	0	321	非ケトーシス型高グリシン血症	0
310	先天異常症候群	0	322	β -ケトチオラーゼ欠損症	0
311	先天性三尖弁狭窄症	0	323	芳香族L-アミノ酸脱炭酸酵素欠損症	0
312	先天性僧帽弁狭窄症	0	324	メチルグルタコン酸尿症	0
313	先天性肺静脈狭窄症	0	325	遺伝性自己炎症疾患	0
314	左肺動脈右肺動脈起始症	0	326	大理石骨病	0
315	ネイルパテラ症候群(爪膝蓋骨症候群)/L MX1B関連腎症	0	327	特発性血栓症(遺伝性血栓性素因によるものに限る。)	0
316	カルニチン回路異常症	0	328	前眼部形成異常	0
317	三頭酵素欠損症	0	329	無虹彩症	0
318	シトリン欠損症	0	330	先天性気管狭窄症	0

(注)「患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

5 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(基本診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
・特定機能病院入院基本料(一般病棟・結核病棟;7対1、精神病棟;10対1)	・特定集中治療室管理料1
・臨床研修病院入院診療加算	・特定集中治療室管理料3
・救急医療管理加算・乳幼児救急医療管理加算	・総合周産期特定集中治療室管理料
・超急性期脳卒中加算	・新生児治療回復室入院医療管理料
・妊産婦緊急搬送入院加算	・一類感染症患者入院医療管理料
・診療録管理体制加算2	・小児入院医療管理料2
・医師事務作業補助体制加算1	・入院時食事療養費(I)
・急性期看護補助体制加算50対1	・
・療養環境加算	・
・重症者等療養環境特別加算	・
・無菌治療室管理加算1、2	・
・緩和ケア診療加算	・
・精神科身体合併症管理加算	・
・精神科リエゾンチーム加算	・
・摂食障害入院医療管理加算	・
・がん診療連携拠点病院加算	・
・医療安全対策加算1	・
・感染防止対策加算1(感染防止対策地域連携加算含む。)	・
・患者サポート体制充実加算	・
・ハイリスク妊娠管理加算	・
・ハイリスク分娩管理加算	・
・呼吸ケアチーム加算	・
・データ提出加算2	・
・退院支援加算2	・
・精神疾患診療体制加算	・
・救命救急入院料3	・

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
・植込型除細動器移行期加算	・皮下連続式グルコース測定
・高度難聴指導管理料	・人工臓器検査
・糖尿病合併症管理料	・長期継続頭蓋内脳波検査
・がん性疼痛緩和指導管理料	・光トポグラフィー
・がん患者指導管理料1、2	・神経学的検査
・外来緩和ケア管理料	・補聴器適合検査
・移植後患者指導管理料(造血幹細胞移植後)	・コンタクトレンズ検査料1
・糖尿病透析予防指導管理料	・ロービジョン検査判断料
・院内トリアージ実施料	・内服・点滴誘発試験
・ニコチン依存症管理料	・センチネルリンパ節生検(片側)
・がん治療連携計画策定料	・画像診断管理加算2
・がん治療連携管理料	・ポジトロン断層撮影及びポジトロン断層・コンピューター断層複合撮影
・肝炎インターフェロン治療計画料	・ポジトロン断層撮影及びポジトロン断層・磁気共鳴コンピューター断層複合撮影
・薬剤管理指導料	・CT撮影及びMRI撮影
・医療機器安全管理料1、2	・冠動脈CT撮影加算
・歯科治療総合医療管理料	・外傷全身CT加算
・持続血糖測定器加算	・大腸CT加算
・造血器腫瘍遺伝子検査	・心臓MRI撮影加算
・HPV核酸検出	・乳房MRI撮影加算
・HPV核酸検出(簡易ジェノタイプ判定)	・抗悪性腫瘍剤処方管理加算
・検体検査管理加算Ⅳ	・外来化学療法加算1
・心臓カテーテル法による諸検査の血管内視鏡検査加算	・無菌製剤処理料
・植込型心電図検査	・心大血管疾患リハビリテーション料(Ⅰ)(初期加算含む。)
・胎児心エコー法	・脳血管疾患等リハビリテーション料(Ⅰ)(初期加算含む。)
・時間内歩行試験	・廃用症候群リハビリテーション料(Ⅰ)(初期加算含む。)
・ヘッドアップティルト試験	・運動器リハビリテーション料(Ⅰ)(初期加算含む。)

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
・呼吸器リハビリテーション料(Ⅰ)(初期加算含む。)	・内視鏡下副甲状腺腫過形成手術
・がん患者リハビリテーション料	・内視鏡下甲状腺部分切除、線種摘出術、内視鏡下バセドウ甲状腺全摘(亜全摘)術(両葉)、内視鏡下副甲状腺(上皮小体)線種過形成術
・歯科口腔リハビリテーション料2	・乳がんセンチネルリンパ節加算1
・精神科作業療法	・肺悪性腫瘍手術(壁側・臓側胸膜全切除(横隔膜、心膜合併切除を伴うもの)に限る。)
・精神科ショートケア(小規模なもの)	・内視鏡下筋層切開術
・抗精神病特定薬剤治療管理料	・経皮的冠動脈形成術
・医療保護入院等診療料	・経皮的冠動脈形成術(高速回転式経皮経管アテレクトミカテーターによるもの)
・硬膜外自家注入	・経皮的冠動脈ステント留置術
・エタノールの局所注入(甲状腺に対するもの)	・経皮的中隔心筋焼灼術
・エタノールの局所注入(副甲状腺に対するもの)	・ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術
・一酸化窒素吸入療法	・植込型心電図記録計移植術及び植込型心電図記録計摘出術
・下肢末梢動脈疾患指導管理加算	・両心室ペースメーカー移植術及び両心室ペースメーカー交換術
・手術用顕微鏡加算	・植込型除細動器移植術及び植込型除細動器交換術及び経静脈電極除去術(レーザーシースを用いるもの)
・CAD/CAM冠	・両室ペーシング機能付き植込型除細動器移植術及び両室ペーシング機能付き植込型除細動器交換術
・皮膚悪性腫瘍切除術における悪性黒色腫センチネルリンパ節加算	・大動脈バルーンパンピング法(IABP法)
・組織拡張器による再建手術(一連につき)(乳房(再建手術)の場合に限る。)	・補助人工心臓
・骨移植術(軟骨移植術を含む。)(自家培養軟骨移植術に限る。)	・植込型補助人工心臓(非拍動流型)
・脳刺激装置植込術(頭蓋内電極植込術を含む。)又は脳刺激装置交換術	・経皮的大動脈遮断術
・脊髄刺激装置植込術又は脊髄刺激装置交換術	・ダメージコントロール手術
・緑内障手術(緑内障治療用インプラント挿入術(プレートのあるもの)	・胆管悪性腫瘍手術(膵頭十二指腸切除及び肝切除(葉以上)を伴うものに限る。)
・網膜付着組織を含む硝子体切除術(眼内内視鏡を用いるもの)	・腹腔鏡下肝切除術
・網膜再建術	・生体部分肝移植
・人工内耳植込術	・同種死体肝移植術
・上顎骨形成術(骨移動に伴う場合に限る。)(歯科)、下顎骨形成術(骨移動を伴う場合に限る。)(歯科)	・腹腔鏡下腓体尾部腫瘍切除術
・内視鏡下甲状腺部分切除、腺腫摘出術	・同種死体膵移植術、同種死体膵腎移植術
・内視鏡下バセドウ甲状腺全摘術	・早期悪性腫瘍大腸粘膜下層剥離術

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類	
・同種死体腎移植術	・強度変調放射線治療(IMRT)	
・生体腎移植術	・画像誘導放射線治療加算(IGRT)	
・膀胱水圧拡張術	・体外照射呼吸性移動対策加算	
・腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術	・定位放射線治療	
・腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)	・定位放射線治療呼吸移動対策加算	
・胎児胸腔・羊水腔シャント術	・病理診断管理加算2	
・医科点数表第2章第10部手術の通則5及び6に掲げる手術	・クラウン・ブリッジ維持管理料	
・医科点数表第2章第10部手術の通則5及び6に掲げる手術(頭蓋内腫瘍摘出術等、黄斑下手術等、鼓室形成手術等、肺悪性腫瘍手術等、経皮的カテーテル心筋焼灼術、靭帯断裂形成手術等、水頭症手術等、鼻副鼻腔悪性腫瘍手術等、尿道形成手術等、角膜移植術、肝切除術等、子宮付属器悪性腫瘍手術等、上顎骨形成術等、上顎骨悪性腫瘍手術等、バセドウ甲状腺全摘(亜全摘)術(両葉)、母指化手術等、内反足手術等、食道切除再建術等、同種死体腎移植術等、人工関節置換術、乳児外科施設基準対象手術、ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術、冠動脈・大動脈バイパス移植術及び体外循環を要する手術、経皮的冠動脈形成術・経皮的冠動脈粥腫切除術及び経皮的冠動脈ステント留置術)、肺悪性腫瘍手術(壁側・臓側胸膜全切除に限る)、胆管悪性腫瘍手術(膵頭十二指腸切除及び肝切除を伴うものに限る))。	・	
	・医科点数表第2章第10部手術の通則の16に掲げる手術 胃瘻増設術(内視鏡下胃瘻増設術、腹腔鏡下胃瘻増設術を含む)。	・
	・輸血管理料 I	・
	・輸血適正使用加算	・
	・自己生体組織接着剤作成術	・
	・人工肛門・人工膀胱造設術前処置加算	・
・内視鏡手術用支援機器加算	・	
・胃瘻造設時嚥下機能評価加算	・	
・広範囲顎骨支持型装置埋入手術	・	
・麻酔管理料(I)(II)	・	
・放射線治療専任加算	・	
・外来放射線治療加算	・	
・高エネルギー放射線治療	・	
・1回線量増加加算	・	

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

7 診療報酬の算定方法に先進医療から採り入れられた医療技術

施設基準等の種類	施設基準等の種類
・該当なし	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・

(注) 1 特定機能病院の名称の承認申請の場合には、必ずしも記入しなくともよいこと。

(注) 2 「施設基準等の種類」欄には、特定機能病院の名称の承認申請又は業務報告を行う3年前の4月以降に、診療報酬の算定方法(平成二〇年厚生労働省告示第五九号)に先進医療(当該病院において提供していたものに限る。)から採り入れられた医療技術について記入すること。

8 病理・臨床検査部門の概要

臨床検査及び病理診断を実施する部門の状況	① 臨床検査部門と病理診断部門は別々である。 2. 臨床検査部門と病理診断部門は同一部門にまとめられている。
臨床部門が病理診断部門或いは臨床検査部門と開催した症例検討会の開催頻度	8回
剖検の状況	剖検症例数 44 例 / 剖検率 13.7 %

(注) 「症例検討会の開催頻度」及び「剖検の状況」欄には、前年度の実績を記入すること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
IL-1を分子標的とする低分子化合物を用いた炎症性疾患の治療法の開発	右田清志	リウマチ膠原病内科	792,305円	補委 文部科学省
自己炎症バイオマーカーによるリウマチ性疾患の新たな分類と治療法の確立	右田清志	リウマチ膠原病内科	1,000,000円	補委 文部科学省
IgG関連疾患における、補体活性化能をもつIgG4の構造的解析	渡辺浩志	リウマチ膠原病内科	910,828円	補委 文部科学省
がん幹細胞及びがん細胞を標的とするα線放出核種を用いた肺がんの新規治療法開発	織内昇	核医学科	4,030,000円	補委 日本学術振興会
PET薬剤自動合成装置の医療機器承認取得に向けた11C標識メチオニンの脳腫瘍診断における有用性に関する研究	織内昇	核医学科	8,996,000円	補委 日本医療研究開発機構
眼内補体因子および関連蛋白質計測による加齢黄斑変性発症の研究	石龍鉄樹	眼科	3,000,000円	補委 文部科学省
眼部腫瘍の全国症例登録システムの構築に関する研究	古田実	眼科	1,000,000円	補委 国立研究開発法人日本医療研究開発機構
弱視治療年齢の調節麻痺下屈折を非侵襲的検査で推測する研究	森隆史	眼科	500,000円	補委 文部科学省
免疫チェックポイント阻害薬の新規バイオマーカーの抽出とその臨床応用	鈴木弘行	呼吸器外科学講座	1,430,000円	補委 日本学術振興会
網羅的遺伝子発現解析技術を用いたKRAS変異肺癌における新規バイオマーカーの探索	山浦匠	呼吸器外科学講座	2,730,000円	補委 日本学術振興会
免疫チェックポイント阻害薬の効果予測因子としての腸内フローラの研究	尾崎(大和田)有紀	呼吸器外科学講座	1,560,000円	補委 日本学術振興会
非小細胞肺癌の根治に向けた術後補助化学療法後の新規ペプチドワクチン維持療法の開発研究	鈴木弘行	呼吸器外科学講座	5,000,000円	補委 日本医療研究開発機構
小児甲状腺がんにおける情報提供と相談支援の体制構築のための研究	鈴木眞一	甲状腺内分泌学講座	6,127,000円	補委 厚生労働省
世界初の人工気管の製品化事業	室野重之他	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	44,000円	補委 日本医療研究開発機構
HPV関連中咽頭癌の高転移性をHPV E5シグナル伝達から解明する	室野重之	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	1,900,000円	補委 日本学術振興会
組織工学的手法を用いた新規人工気管の開発と生理的気管上皮再生機序の解明	多田靖宏	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	900,000円	補委 日本学術振興会
機能的な気管軟骨の再生に関する研究	野本幸男	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	2,013,694円	補委 日本学術振興会
新しい分子生物学的手法を用いたリンパ節転移診断の研究開発	鈴木政博	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	859,425円	補委 日本学術振興会
軟骨細胞と線維芽細胞を用いた新規人工気管の開発	野本美香	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	660,554円	補委 日本学術振興会
足場材料、成長因子及びiPS細胞を利用した術後声帯癆痕に関する再生医学研究	今泉光雅	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	1,600,000円	補委 日本学術振興会

小計20件

人工気管のコラーゲン構成最適化による気管上皮再生	仲江川雄太	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	1,200,000円	補委	日本学術振興会
Muse細胞を利用した声帯の再生技術の開発	柳川明弘	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	1,643,687円	補委	日本学術振興会
乳癌ホルモン療法の効果・耐性化に関連する血中微量ステロイドホルモンの探索的研究	佐治重衡	腫瘍内科学講座	4,810,000円	補委	科学研究費助成事業(学術研究助成基金助成金)基盤研究(C)
乳がんに対する標準治療確立のための多施設共同研究	佐治重衡	腫瘍内科学講座	300,000円	補委	平成29年度国立がん研究センター運営費交付金研究開発費 29-A-3・成人固形がんに対する標準治療確立のための基盤研究(JCOG)
東日本大震災前後のがん罹患率と臨床病理学的特徴に関する検討	研究代表者 木村礼子 研究協力者 佐治重衡	腫瘍内科学講座	2,860,000円	補委	科学研究費助成事業(学術研究助成基金助成金)若手(B)
PNHの真の病態とは何か? : PNHにおける網羅的遺伝子解析とiPS細胞バンク創設	野地秀義	腫瘍内科学講座	4,550,000円	補委	科学研究費助成事業(学術研究助成基金助成金)基盤研究(C)(一般)
糖尿病を合併した虚血性心不全に対する治療戦略	竹石恭知	循環器内科	1,200,000円	補委	独立行政法人日本学術振興会
心不全と全身性炎症疾患である慢性閉塞性肺疾患の関連性と悪循環因子の解明	小林淳	循環器内科	1,300,000円	補委	独立行政法人日本学術振興会
左室収縮の保持された心不全に対する呼吸補助療法の有用性	義久精臣	循環器内科	700,000円	補委	独立行政法人日本学術振興会
動脈硬化と動脈瘤の形成と進展におけるSMP30の役割	鈴木聡	循環器内科	1,300,000円	補委	独立行政法人日本学術振興会
脳心連関に着目した慢性心不全治療戦略の構築-交感神経とPDE3への治療介入-	及川雅啓	循環器内科	1,200,000円	補委	独立行政法人日本学術振興会
放射線治療にともなう心血管疾患の分子病態の解明と予知-DNA損傷の視点から	石田隆史	循環器内科	1,000,000円	補委	独立行政法人日本学術振興会
バイオマーカーと形態診断モダリティによる肺高血圧症の診断と治療効果判定法の確立	中里和彦	循環器内科	1,200,000円	補委	独立行政法人日本学術振興会
心不全患者における新しい体液量評価法を用いた診療体制の確立	佐藤崇匡	循環器内科	2,000,000円	補委	独立行政法人日本学術振興会
心不全における呼吸低分子化合物の意義	横川哲朗	循環器内科	800,000円	補委	独立行政法人日本学術振興会
局所的心臓交感神経介入による急性心不全治療戦略の構築-脳心連関の視点から-	野寺穰	循環器内科	1,500,000円	補委	独立行政法人日本学術振興会
心不全におけるセルフリーDNAのメチル化の検討	三阪智史	循環器内科	1,700,000円	補委	独立行政法人日本学術振興会
PET/MRIを用いた心筋血流と心筋低酸素の相互評価による心疾患診断	益田淳朗	循環器内科	1,400,000円	補委	独立行政法人日本学術振興会
腹部大動脈瘤形成におけるSMP30の役割	渡邊俊介	循環器内科	1,500,000円	補委	独立行政法人日本学術振興会

小計19件

拡張相肥大型心筋症を対象とした多施設登録観察研究	竹石恭知	循環器内科	350,000円	補委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構 (AMED)
心房細動アブレーション慢性期における抗凝固療法中止基準の確立	鈴木均	循環器内科	500,000円	補委	公立大学法人福島県立医科大学 平成29年度研究支援事業
抗加齢蛋白SMP30と酸化ストレスに起因する微小血管狭心症の発症機構	齋藤修一	循環器内科	500,000円	補委	公立大学法人福島県立医科大学 平成29年度研究支援事業
PET/MRIを用いた心サルコイドーシスに対するステロイド治療	八巻尚洋	循環器内科	500,000円	補委	公立大学法人福島県立医科大学 平成29年度研究支援事業
「血液・組織検体のEMTモニタリングによるStage II・III食道癌個別化医療の試み」	藤田正太郎	消化管外科学講座	900,000円	補委	独立行政法人日本学術振興会
「がん患者エフェクター細胞を用いた脱フコシル化抗体のADCC活性解析」	中島隆宏	消化管外科学講座	1,100,000円	補委	独立行政法人日本学術振興会
「乳癌におけるT細胞を用いた免疫細胞療法の開発」	三村耕作	消化管外科学講座	1,700,000円	補委	独立行政法人日本学術振興会
「直腸癌の術前治療感受性を予測する遺伝子およびマイクロRNAバイオマーカーの開発」	大木進司	消化管外科学講座	1,300,000円	補委	独立行政法人日本学術振興会
「消化器癌におけるPDL1発現機構の解明と免疫チェックポイント阻害療法の開発」	河野浩二	消化管外科学講座	700,000円	補委	独立行政法人日本学術振興会
「甲状腺癌幹細胞を標的とした新たな治療法の開発」	早瀬傑	消化管外科学講座	1,800,000円	補委	独立行政法人日本学術振興会
「大腸癌間質における癌関連線維芽細胞由来VCANによる転移・浸潤促進機構の解明」	岡山洋和	消化管外科学講座	1,000,000円	補委	独立行政法人日本学術振興会
「肺腺がん術後再発と化学療法応答性に関わる因子の解明」	齋藤元伸	消化管外科学講座	1,000,000円	補委	独立行政法人日本学術振興会
「大腸癌の糖鎖プロファイルに基づく新規molecular subtypeの同定」	岡山洋和	消化管外科学講座	2,000,000円	補委	独立行政法人日本学術振興会
(2). 「ミスマッチ修復欠損・BRAF変異型大腸癌におけるフコース転移酵素発現異常の意義」	野田勝	乳腺外科学講座	900,000円	補委	独立行政法人日本学術振興会
(4). 「Wnt/ β /cateninシグナルを標的としたトリプルネガティブ乳癌の化学予防」	大竹徹	乳腺外科学講座	1,500,000円	補委	独立行政法人日本学術振興会
転移陰性リンパ節を用いた胃癌特異的マイクロRNAに基づく個別化バイオマーカー	石亀輝英	肝胆膵・移植外科学講座	1,000,000円	補委	独立行政法人日本学術振興会
(11). 「大規模ゲノムデータによるステージII/III大腸癌術後個別化バイオマーカーの作成と検証」	竹之下誠一	福島県立医科大学	1,400,000円	補委	独立行政法人日本学術振興会
(12). 「乳癌における新規腫瘍マーカーMECA-79の臨床的意義と転移における機能解析」	阿部宣子	乳腺外科学講座	1,400,000円	補委	独立行政法人日本学術振興会
(1). 「食道がん、胃がん、大腸がんにおける樹状細胞ワクチンの開発」	三村耕作	消化管外科学講座	1,000,000円	補委	公立大学法人福島県立医科大学 平成29年度戦略的学内研究推進事業
(1). 「新規癌治療ターゲットとしてのペータアレスチン経路の可能性」	坂本渉	消化管外科学講座	500,000円	補委	公立大学法人福島県立医科大学 平成29年度研究支援事業
(2). 「抗癌剤治療抵抗性に関与する薬剤トランスポーターSLC37A1の役割の解明」	門馬智之	消化管外科学講座	500,000円	補委	公立大学法人福島県立医科大学 平成29年度研究支援事業

小計21件

(3)。「改良型アポトーシス抑制蛋白を用いた高機能新生胚島組織の開発」	花山寛之	消化管外科学講座	500,000円	補委	公立大学法人福島県立医科大学 平成29年度研究支援事業
(4)。「進行大腸癌における腸内フローラによる制御性T細胞の誘導に関する研究」	菊池智宏	消化管外科学講座	500,000円	補委	公立大学法人福島県立医科大学 平成29年度研究支援事業
「マイクロRNAを用いた大腸癌免疫療法の個別化戦略」	岡山洋和	消化管外科学講座	2,000,000円	補委	公益財団法人 上原記念生命科学財団
難治性の肝・胆道疾患に関する調査研究	大平弘正	消化器内科	280,000円	補委	厚生労働省科学研究費
難治性の肝・胆道疾患に関する治療介入の有用性についてのエビデンス作成のための研究	大平弘正	消化器内科	200,000円	補委	日本医療研究開発機構 研究費
自己免疫性肝疾患におけるNETs・EETsの病態への関与	大平弘正	消化器内科	1,300,000円	補委	文部科学省科学研究費 基盤研究 (C)
肝線維化における自然免疫を介した肝再生への誘導	阿部和道	消化器内科	100,000円	補委	文部科学省科学研究費 基盤研究 (C)
「日本ブレインバンクネットの構築」「福島地区の精神疾患拠点の構築」	矢部博興	心身医療科	1,674,000円	補委	AMED
コホート・生体試料支援プラットフォーム	矢部博興	心身医療科	1,961,539円	補委	文部科学省
脳科学研究戦略推進プログラム「臨床と基礎研究の連携強化による精神・神経疾患の克服(融合脳)」発達障害・統合失調症等の克服に関する研究「細胞内代謝・ダイナミクス制御から切り拓く発達障害・統合失調症の病理	國井泰人	心身医療科	4,250,000円	補委	AMED
ジェネティックニューロパソロジーによる統合失調症脳内分子表現型解析	國井泰人	心身医療科	899,341円	補委	文部科学省
統合失調症早期発見のためのMMNの時間統合研究と原発事故影響の生理学的検証	矢部博興	心身医療科	2,905,356円	補委	文部科学省
統合失調症へのオキシトシン点鼻薬による自動的聴覚識別機能への効果	志賀哲也	心身医療科	1,956,820円	補委	文部科学省
音楽を取り入れた統合失調症の認知リハビリテーションプログラムの開発研究	丹羽真一	心身医療科	350,000円	補委	文部科学省
統合失調症の社会認知機能評価の包括的検査バッテリーとその簡易普及版の開発	丹羽真一	心身医療科	800,000円	補委	文部科学省
神経系疾患に関する研究	矢部博興	心身医療科	454,545円	補委	ファイザー
SSTの発展を通じた統合失調症リカバリー支援、被災当事者支援	丹羽真一	心身医療科	700,000円	補委	AMED
成人期注意欠陥多動性障害の診断用バイオマーカーの開発：マルチモーダルアプローチ	矢部博興	心身医療科	11,589,762円	補委	ヤンセンファーマ
オキシトシンが統合失調症の臨床症状・社会行動障害に与える影響についての検討	三浦至	心身医療科	600,000円	補委	文部科学省
プロジェクトリターン2017：原発事故後に避難した精神科入院患者の帰還支援の試み	後藤大介	神経精神医学講座	1,500,000円	補委	文部科学省
慢性腎臓病患者対象、ルビプロストンの腎機能低下抑制効果を検討する無作為化、二重盲検、プラセボ対照、他施設共同、探索的治験	風間順一郎	腎臓高血圧内科学講座	2,100,000円	補委	東北大学 AMED

小計21件

糖尿病合併冠動脈疾患レジストリを基盤としたコルヒチン第3相検証的試験の実施とRCT On Registryに向けたレジストリデータの品質管理と標準化に関する研究	島袋充生	糖尿病内分泌代謝内科学講座	1,846,154円	補 委	AMED (琉球大学主幹)
2型糖尿病患者を対象とした血管合併症抑制のための強化療法と従来治療とのランダム化比較検討試験介入終了後の追跡研究 (J-DOIT3)	島袋充生	糖尿病内分泌代謝内科学講座	300,000円	補 委	厚生労働費
心臓脂肪、異所性脂肪、サルコペニアの病的意の解明と新しい診療コンセプトの構築	島袋充生	糖尿病内分泌代謝内科学講座	1,300,000円	補 委	文科科研費
食行動と糖尿病：脳腸関連機序の解析	工藤明宏	糖尿病内分泌代謝内科学講座	1,300,000円	補 委	文科科研費
Wnt/ β -cateninシグナルを標的としたトリプルネガティブ乳癌の化学予防	大竹徹	乳腺外科学講座	4,680,000円	補 委	文部科研 基盤研究(C)
ミスマッチ修復欠損・BRAF変異型大腸癌におけるフォース転移酵素発現以上の意義	野田勝	乳腺外科学講座	4,810,000円	補 委	文部科研 基盤研究(C)
神経皮膚症候群に関する診療科横断的な診療体制の確立	齋藤清	脳神経外科	800,000円	補 委	厚生労働省
術中情報を統合した4Dマルチレイヤーナビゲーション・手術支援プラットフォームの開発	藤井正純	脳神経外科	2,100,000円	補 委	日本学術振興会
神経線維腫症2型はなぜ難病？孤発例神経鞘腫との比較による分子機序解明と治療法開発	齋藤清	脳神経外科	1,400,000円	補 委	日本学術振興会
福島の脳卒中医療における地域格差と予後に関する研究	佐久間潤	脳神経外科	1,600,000円	補 委	日本学術振興会
ISYNA1による細胞内ミオインシトール合成制御からの腎細胞癌抑制機序の解明	胡口智之	泌尿器科	1,600,000円	補 委	日本学術振興会
尿路上皮癌におけるリゾフォスファチジン酸の機能解析	片岡政雄	泌尿器科	1,800,000円	補 委	日本学術振興会
精巣における転写因子機構の解明と男子不妊症遺伝子治療に向けた基礎的研究	佐藤雄一	泌尿器科	900,000円	補 委	日本学術振興会
腎細胞癌におけるPD-L1およびTRAIL受容体発現抑制機構の解明とその克服を目指した基礎研究	石橋啓	泌尿器科	1,000,000円	補 委	日本学術振興会
前立腺肥大症における自己抗原認識による補体活性化機序の解明	秦淳也	泌尿器科	1,200,000円	補 委	日本学術振興会
過活動膀胱症に関与するシグナル伝達系の同定と新規治療薬・診断マーカーの開発	赤井畑秀則	泌尿器科	1,400,000円	補 委	日本学術振興会
強皮症・皮膚線維化疾患の診断基準・重症度分類・診療ガイドラインに関する研究	尹浩信 山本俊幸 他	皮膚科	150,000円	補 委	熊本大学
乾癬性関節炎の不可逆的関節破壊進行阻止のための早期発見と治療を目指した診療ガイドライン策定に関する研究	朝比奈昭彦 山本俊幸 他	皮膚科	64,800円	補 委	慈恵医大
同時収集型PET/MRI装置による認知症分子病態診断の高度化	伊藤浩	医学部放射線医学講座	4,550,000円	補 委	日本学術振興会 平成28年度科学研究費 基盤研究C
「免疫放射線療法確立に向けた基礎・トランスレーショナル研究」	鈴木義行	放射線治療科	4,810,000円	補 委	学術振興会
「急性放射線障害に対するヒト胎盤系間葉細胞治療の非臨床有効性検証研究」	鈴木義行	放射線治療科	4,680,000円	補 委	学術振興会

小計21件

「がん重粒子線治療の高度化と治療個別化の 為の基礎的・臨床的研究」	鈴木義行	放射線治療科	16,380,000円	補 委	学術振興会
「放射線治療にともなう心血管疾患の分子病 態の解明と予知-DNA損傷の視点から」	鈴木義行	放射線治療科	4,550,000円	補 委	学術振興会
International Study for Treatment of Standard Risk Childhood Relapsed ALL 2010 (IntReALL SR 2010)第一再発小児急性性 リンパ性白血病標準リスク群に対する第III 相国際共同臨床研究	菊田敦	小児腫瘍内科	108,000円	補 委	国立病院機構名古屋医 療センター
Notch ligand Dll4によるTh1誘導性DCを応用 した癌ワクチン療法	望月一弘	小児腫瘍内科	1,300,000円	補 委	日本学術振興会
小児がんレジストリーを用いた転移性肝芽腫 に対する薬剤開発戦略としての国際共同臨床 試験	菊田敦	小児腫瘍内科	1,599,999円	補 委	日本医療研究開発機構 (AMED)
小児およびAYA世代の横紋筋肉腫およびユ ーイング肉腫患者に対するリスク層別化臨床試 験実施による標準的治療法の開発	佐野秀樹	小児腫瘍内科	878,800円	補 委	日本医療研究開発機構 (AMED)
小児再発・難治性白血病に対する低用量抗胸 腺細胞免疫グロブリンを用いたT細胞充満HLA ハプロ移植の多施設共同非盲検無対照試験	菊田敦	小児腫瘍内科	4,923,434円	補 委	日本医療研究開発機構 (AMED)
初回再発ユーイング肉腫ファミリー腫瘍に対 するトボテカン+イフォスファミド (TI)療法 の第II相試験	佐野秀樹	小児腫瘍内科	800,000円	補 委	公益財団法人 がんの子どもを守る会
小児難治性白血病に対するT細胞非除去ハ プロ移植後の移植片対宿主病発症及び重症化に 係るバイオマーカーの同定	望月一弘	小児腫瘍内科	1,000,000円	補 委	公益信託 日本白血病研究基金
運動失調症の医療基盤に関する研究	宇川義一	神経内科	700,000円	補 委	厚生労働省
ヒト神経可塑性への新展開：バイオマ ーカー・薬効機序・新増強法-個別最適治療の 開発へ	宇川義一	神経内科	2,500,000円	補 委	文部科学省
機能的ネットワーク病態への介入	宇川義一	神経内科	10,000,000円	補 委	文部科学省
価値に基づく意思決定における視覚的注意の 役割	小林俊輔	神経内科	900,000円	補 委	文部科学省
最も効果的なヒト脳可塑性誘導法の開発： PA-QPSの基礎的/臨床的研究	村上丈伸	神経内科	700,000円	補 委	文部科学省
パーキンソン病における運動野皮質可塑性異 常の意義と治療計画	榎本博之	神経内科	700,000円	補 委	文部科学省
末梢神経疾患における骨格筋マルチパラメ トリックイメージング法の臨床応用の開発	松田希	神経内科	1,200,000円	補 委	文部科学省
時空間認知とその心理的相互作用に関与する 神経機能の解明	小林俊輔	神経内科	900,000円	補 委	文部科学省
不均一反復磁気刺激法の長期効果と脳機能連 関：正常者と薬剤抵抗性てんかん患者の比較	榎本雪	神経内科	500,000円	補 委	文部科学省
復唱がもたらす言語学習の可能性-復唱訓練 とTMSとのハイブリット療法-	村上丈伸	神経内科	400,000円	補 委	武田科学振興財団
大動脈瘤に対する大動脈ステントグラフト内 挿術後の拡張性心不全の機序探求と治療	高野真澄	集中治療部	500,000円	補 委	公立大学法人福島県立 医科大学平成29年度研 究支援事業育成研究
局所麻酔薬中毒の中脳神経症状に対する Lipid Rescueの作用機序の解明	村川雅洋	麻酔・疼痛緩和科	1,300,000円	補 委	日本学術振興会 科学研究費補助金
麻酔薬による、糖質コルチコイド誘導免疫細 胞アポトーシスの増強作用機序の解析	黒澤伸	麻酔・疼痛緩和科	1,000,000円	補 委	日本学術振興会 科学研究費補助金

小計22件

静脈注射用アセトアミノフェンの日本人手術患者の薬物動態・薬力学解明	小原伸樹	手術部、麻酔疼痛緩和科	400,000円	補 委	日本学術振興会 科学研究費補助金
酸素ナノバブルの経気管投与における抗炎症作用に関する検討	吉田圭佑	麻酔・疼痛緩和科	2,200,000円	補 委	日本学術振興会 科学研究費補助金
頸部交換神経遮断による手術ストレス軽減効果に関する研究	三部徳恵	麻酔・疼痛緩和科	500,000円	補 委	公立大学法人福島県立 医科大学平成29年度研究 支援事業育成研究
デブレノンによるHs p 70誘導と周術期臓器保護の可能性	中野裕子	麻酔・疼痛緩和科	500,000円	補 委	公立大学法人福島県立 医科大学平成29年度研究 支援事業育成研究
福島県でのロコモ検診とロコモ体操研修会の活動（ロコモ推進活動）	大井直往	リハビリテーション医学 講座	1,000,000円	補 委	日本運動器科学会
				補 委	
				補 委	

小計5件

合計129件

- (注)
- 1 申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
 - 2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入する
 - 3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

(1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
1	Migita K, Iwanaga N, Izumi Y, et al	リウマチ膠原病内科	TNF- α -induced miR-155 regulates IL-6 signaling in rheumatoid synovial fibroblasts.	BMC Res Notes. 2017;10(1):403(オンライン)	Original Article
2	Sato S, Yashiro M, Asano T, et al	リウマチ膠原病内科	Association of anti-triosephosphate isomerase antibodies with aseptic meningitis in patients with neuropsychiatric systemic lupus erythematosus.	Clin Rheumatol. 2017;36(7):1655-1659. (オンライン)	Original Article
3	Asano T, Ito H, Kariya Y, et al	リウマチ膠原病内科	Evaluation of blood-brain barrier function by quotient alpha2 macroglobulin and its relationship with interleukin-6 and complement component 3 levels in neuropsychiatric systemic lupus erythematosus.	PLoS One. 2017;12(10):e0186414. (オンライン)	Original Article
4	Asano T, Furukawa H, Sato S, et al	リウマチ膠原病内科	Effects of HLA-DRB1 alleles on susceptibility and clinical manifestations in Japanese patients with adult onset Still's disease.	Arthritis Res Ther. 2017;19(1):199. (オンライン)	Original Article
5	Migita K, Hisanaga S, Izumi Y, et al	リウマチ膠原病内科	Protracted arthritis in a Japanese patient with familial Mediterranean fever.	Mod Rheumatol. 2017;27(5):905-909.	Case report
6	Migita K, Tsuji Y, Hisatomi K, et al	リウマチ膠原病内科	Acute exacerbation of rheumatoid interstitial lung disease during the maintenance therapy with certolizumab pegol.	Mod Rheumatol. 2017;27(6):1079-1082.	Case report
7	Ouchi k, Hakozaki M, Konno S, et al	医療安全管理部	Osteochondroma of the Tibial Sesamoid: A Case Report and Review of the Literature	The Journal of Foot & Ankle Surgery	Case report
8	Higuchi M, Takagi H, Owada Y, et al	呼吸器外科	Efficacy and tolerability of nanoparticle albumin-bound paclitaxel in combination with carboplatin as a late-phase chemotherapy for recurrent and advanced non-small-cell lung cancer: A multi-center study of the Fukushima lung cancer association group of surgeons.	Oncol Lett. 2017 Jun; 13: 4315-4321	Original Article
9	Muto S, Takagi H, Owada Y, et al	呼吸器外科	Serum Nitric Oxide as a Predictive Biomarker for Bevacizumab in Non-small Cell Lung Cancer Patients	Anticancer Res. 2017 Jun; 37: 3169-3174	Original Article
10	Fukuhara M, Higuchi M, Owada Y, et al	呼吸器外科	Clinical and pathological aspects of microscopic thymoma with myasthenia gravis and review of published reports.	J Thorac Dis. 2017 Jun; 9: 1592-1597	Original Article
11	Okabe N, Takagi H, Mine H, et al	呼吸器外科	Osimertinib for Epidermal Growth Factor Receptor Mutation-Positive Lung Adenocarcinoma That Transformed to T790M-Positive Squamous Cell Carcinoma.	J Thorac Oncol. 2017 Oct; 12: e167-e169	Letter
12	Inoue T, Takagi H, Owada Y, et al	呼吸器外科	The Efficacy of the Kampo medicine rikunshito for chemotherapy-induced anorexia (RICH trial): study protocol for a randomized controlled trial.	Trials. 2017 Oct 18; 18: 485	Original Article
13	Matsumura Y, Owada Y, Inoue T, et al	呼吸器外科	Epidermal growth factor receptor mutation status is strongly associated with smoking status in patients undergoing surgical resection for lung adenocarcinoma.	Interact Cardiovasc Thorac Surg. 2017 Nov 1; 25: 690-695	Original Article
14	Matsumura Y, Suzuki H, Ohira T, et al	呼吸器外科	Matched-pair analysis of a multi-institutional cohort reveals that epidermal growth factor receptor mutation is not a risk factor for postoperative recurrence of lung adenocarcinoma.	Lung Cancer. 2017 Dec; 114: 23-30	Original Article
15	Yamaura T, Ezaki J, Okabe N, et al	呼吸器外科	Family with sequence similarity 83, member B is a predictor of poor prognosis and a potential therapeutic target for lung adenocarcinoma expressing wild-type epidermal growth factor receptor.	Oncol Lett. 2018 Feb; 15: 1549-1558	Original Article
16	Shinichi Suzuki	甲状腺内分泌学講座	The Features of Childhood and Adolescent Thyroid Cancer After the Fukushima Nuclear Power Plant Accident	ELSEVIER, p155-163, 20170412	Review
17	Nakaegawa Y, Nakamura R, Tada Y, et al.	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	Effects of artificial tracheal fixation on tracheal epithelial regeneration and prevention of tracheal stenosis	Acta Otolaryngol・2017年6月, 137(6):627-634	Original Article

小計17件

18	Suzuki M, Matsuzuka T, Ikeda M, et al.	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	Spontaneous regression of chemotherapy-resistant metastases from a scalp angiosarcoma	Fukushima J Med Sci-2017年8月, 63(2):106-111	Case report
19	Saji S.	腫瘍内科学講座	The long and winding road for overcoming resistance to hormone therapy in breast cancer.	Breast Cancer. 25(4):377-378, 2018.	Letter
20	Kimura-Tsuchiya R, Sasaki E, Nakamura I, et al	腫瘍内科学講座	A case of squamous cell carcinoma of unknown primary that responded to multi-tyrosine kinase inhibitor lenvatinib.	Case Rep Oncol 2018;11:75-80	Case report
21	Akiomi Yoshihisa	循環器内科	Associations of acid suppressive therapy with cardiac mortality in heart failure patients	Journal of the American Heart Association 6(5), e005110, 2017, 5月	Original Article
22	Akiomi Yoshihisa	循環器内科	Decreased cardiac mortality with nicorandil in patients with ischemic heart failure	BMC Cardiovascular Disorders 17(1), 141, 2017, 5月	Original Article
23	Akiomi Yoshihisa	循環器内科	Associations between acylcarnitine to free carnitine ratio and adverse prognosis in heart failure patients with reduced or preserved ejection fraction	ESC Heart Failure 4(3), 360-364, 2017, 8月	Original Article
24	Akiomi Yoshihisa	循環器内科	Better clinical outcome with direct oral anticoagulants in hospitalized heart failure patients with atrial fibrillation	BMC Cardiovascular Disorders 18(1), 11, 2018, 1月	Original Article
25	Akiomi Yoshihisa	循環器内科	Impact of nutritional indices on mortality in patients with heart failure	Open Heart 5(1), e000730, 2018, 1月	Original Article
26	Atsuro Masuda	循環器内科	Inflammatory involvement in patient with Leriche syndrome evaluated by ¹⁸ F-fluorodeoxyglucose PET/MRI	Journal of Nuclear Cardiology 24(5), 1819-1821, 2017, 10月	Original Article
27	Kazuhiko Nakazato	循環器内科	Lotus root sign in the renal artery in renovascular hypertension	Circulation Journal 81(8), 1234-1235, 2017, 7月	Original Article
28	Koichi Sugimoto	循環器内科	Pulmonary artery diameter predicts lung injury after balloon pulmonary angioplasty in patients with chronic thromboembolic pulmonary hypertension	International Heart Journal 58(4), 584-588, 2017, 8月	Original Article
29	Koichi Sugimoto	循環器内科	Autoimmune disease mouse model exhibits pulmonary arterial hypertension	PLoS One 12(9), e0184990, 2017, 9月	Original Article
30	Masayoshi Oikawa	循環器内科	Novel parameter to predict left ventricular filling pressure: product of log B-Type natriuretic peptide and ratio of mitral inflow early and late diastolic filling velocities	Journal of Cardiac Failure 24(1), 29-32, 2018, 1月	Original Article
31	Takamasa Sato	循環器内科	Cardiopulmonary exercise testing as prognostic indicators: Comparisons among heart failure patients with reduced, mid-range and preserved ejection fraction	European Journal of Preventive Cardiology 24(18), 1979-1987, 2017, 12月	Original Article
32	Takayoshi Yamaki	循環器内科	Cardioprotection by minocycline in a rabbit model of ischemia/reperfusion injury: Detection of cell death by in vivo ¹¹¹ In-GSAO SPECT	Journal of Nuclear Cardiology 25(1), 94-100, 2018, 2月	Original Article
33	Tetsuro Yokokawa	循環器内科	Elevated exhaled acetone concentration in stage C heart failure patients with diabetes mellitus	BMC Cardiovascular Disorders 17(1), 280, 2017, 11月	Original Article
34	Tetsuro Yokokawa	循環器内科	Clinical features in extremely elderly patients with heart failure	Geriatrics & Gerontology International 17(11), 2194-2199, 2017, 11月	Original Article
35	Tetsuro Yokokawa	循環器内科	Change of exhaled acetone concentration in a diabetic patient with acute decompensated heart failure	International Heart Journal 58(5), 828-830, 2017, 10月	Original Article
36	Yasuchika Takeishi	循環器内科	Cardiac imaging with ¹⁸ F-fluorodeoxyglucose PET/MRI in hypertrophic cardiomyopathy	Journal of Nuclear Cardiology 24(5), 1827-1828, 2017, 10月	Original Article
37	Yu Sato	循環器内科	Subclinical hypothyroidism is associated with adverse prognosis in heart failure patients	Canadian Journal of Cardiology 34(1), 80-87, 2018, 1月	Original Article

小計20件

38	Yu Sato	循環器内科	Liver stiffness assessed by Fibrosis-4 index predicts mortality in patients with heart failure	Open Heart 4(1), e000598, 2017, 4月	Original Article
39	Gonda K, Shibata M, Ohtake T,他	消化管外科	Myeloid-derived suppressor cells are increased and correlated with type 2 immune responses, malnutrition, inflammation, and poor prognosis in patients with breast cancer	Oncol Lett. 2017.	Original Article
40	Gonda K, Shibata M, Sato Y,他	消化管外科	Elevated neutrophil to lymphocyte ratio is associated with nutritional impairment, immune suppression, resistance to S-1 plus cisplatin, and poor prognosis in patients with stage IV gastric cancer.	Mol Clin Oncol.2017.	Original Article
41	Hayase S, Kumamoto K, Saito K,他	消化管外科	L-type amino acid transporter 1 expression is upregulated and associated with cellular proliferation in colorectal cancer.	Oncol Lett. 2017.	Original Article
42	Mimura K, Teh JL, Okayama H 他	消化管外科	PD-L1 expression is mainly regulated by interferon gamma associated with JAK-STAT pathway in gastric cancer.	Cancer Sci.2017 Nov 18.	Original Article
43	Momma T, Okayama H, Saitou M,他	消化管外科	Expression of circadian clock genes in human colorectal adenoma and carcinoma.	Oncol Lett. 2017.	Original Article
44	Saito M, Fujiwara Y, Asao T,他	消化管外科	The genomic and epigenomic landscape in thymic carcinoma.	Carcinogenesis, 2017.	Original Article
45	Saito M, Okayama H, Saito K,他	消化管外科	CDX2 is involved in microRNA-related inflammatory carcinogenesis in gastric cancer.	Oncol Lett. 2017.	Original Article
46	Tada T, Honma R, Imai JI,他	消化管外科	A novel gene expression scoring system for accurate diagnosis of basaloid squamous cell carcinoma of the esophagus.	Int J Oncol. 2017.	Original Article
47	Takahashi A, Kono S, Wada A, et al	消化器内科	Reduced brain activity in female patients with non-alcoholic fatty liver disease as measured by near-infrared spectroscopy.	PLoS One. 2017 Apr 4;12(4)	Original Article
48	Sugimoto M, Takagi T, Suzuki R,et al	消化器内科	Pancreatic neuroendocrine tumor Grade 1 patients followed up without surgery: Case series.	World J Clin Oncol. 8(3):293-299, 2017	Original Article
49	Sugimoto M, Takagi T, Konno N,	消化器内科	The efficacy of biliary and serum macrophage inhibitory cytokine-1 for diagnosing biliary tract cancer.	Sci Rep. 2017 Aug 23;7(1):9198	Original Article
50	Nakamura J, Hikichi T, Watanabe K,et al	消化器内科	Feasibility of Short-Period, High-Dose Intravenous Methylprednisolone for Preventing Stricture after Endoscopic Submucosal Dissection for Esophageal Cancer: A Preliminary Study.	Gastroenterol Res Pract. 2017(オンライン)	Original Article
51	Sugimoto M, Takagi T, Suzuki R,et al	消化器内科	Contrast-enhanced harmonic endoscopic ultrasonography in gallbladder cancer and pancreatic cancer.	Fukushima J Med Sci. 63(2):39-45, 2017	Original Article
52	Takasumi M, Hikichi T, Takagi T, et al	消化器内科	Efficacy of endoscopic ultrasound-guided fine-needle aspiration for schwannoma: six cases of a retrospective study.	Fukushima J Med Sci. 63(2):75-80, 2017	Original Article
53	Sugimoto M, Takagi T, Suzuki R,et al	消化器内科	Predictive factors for the failure of endoscopic stent-in-stent self-expandable metallic stent placement to treat malignant hilar biliary obstruction.	World J Gastroenterol. 23(34):6273-6280, 2017	Original Article
54	Sugimoto M, Takagi T, Suzuki R, et al	消化器内科	Endoscopic Ultrasonography-Guided Fine Needle Aspiration Can Be Used to Rule Out Malignancy in Autoimmune Pancreatitis Patients.	J Ultrasound Med. 36:2237-2244, 2017	Original Article
55	Fujita M, Abe K, Hayashi M, et al	消化器内科	Two cases of liver cirrhosis treated with lusutrombopag before partial splenic embolization.	Fukushima J Med Sci. 63(3):165-171, 2017	Case report
56	Watanabe K, Hikichi T, Nakamura J, et al	消化器内科	Feasibility of esophageal stent fixation with an over-the-scope-clip for malignant esophageal strictures to prevent migration.	Endosc Int Open. 5(11):E1044-E1049, 2017	Case report
57	Fujiwara T, Kono S, Katakura K, et al	消化器内科	Evaluation of Brain Activity Using Near-infrared Spectroscopy in Inflammatory Bowel Disease Patients.	Sci Rep. 8(1):402, 2018. (オンライン)	Original Article

小計20件

58	Kikuchi H, Hikichi T, Watanabe K, et al	消化器内科	Efficacy and safety of sedation during endoscopic submucosal dissection of gastric cancers using a comparative trial of propofol versus midazolam.	Endosc Int Open. 6(1):E51-E57, 2018	Original Article
59	Hayashi M, Kawana S, Sekino H, et al	消化器内科	Contrast uptake in primary hepatic angiosarcoma on gadolinium-ethoxybenzyl-diethylenetriamine pentaacetic acid-enhanced magnetic resonance imaging in the hepatobiliary phase.	World J Hepatol 10(1):166-171, 2018	Case report
60	Horikoshi S, Miura I, Kunii Y, et al.	心身医療科	Hashimoto encephalopathy with high plasma monoamine metabolite levels: a case report.	Neuropsychiatr Dis Treat. 2017 Apr 7;13:1043-1045.	Original Article
61	Tsuchiyagaito A, Horiuchi S, Igarashi T, et al.	心身医療科	Factor structure, reliability, and validity of the Japanese version of the Hoarding Rating Scale-Self-Report (HRS-SR-J).	Neuropsychiatr Dis Treat. 2017 May 9;13:1235-1243.	Original Article
62	Miura I, Nagai M, Maeda M, et al.	心身医療科	Perception of Radiation Risk as a Predictor of Mid-Term Mental Health after a Nuclear Disaster: The Fukushima Health Management Survey.	Int J Environ Res Public Health 2017 Sep 15;14(9).	Original Article
63	Asano S, Kunii Y, Hoshino H, et al.	心身医療科	The efficacy of antipsychotics for prolonged delirium with renal dysfunction.	Neuropsychiatr Dis Treat. 2017 Nov 16;13:2823-2828.	Original Article
64	Hatakeyama T, Kunii Y, Miura I, et al.	心身医療科	Dynamic changes in near-infrared spectroscopy (NIRS) findings in first-episode schizophrenia: a case report.	Fukushima J Med Sci. 2017 Apr 28;63(1):28-31.	Original Article
65	Motoya R, Otani K, Nikaido T, et al.	心身医療科	Short-term effect of back school based on cognitive behavioral therapy involving multidisciplinary collaboration.	2017 Aug 9;63(2):81-89. Fukushima J Med Sci.	Original Article
66	Katsumi A, Hoshino H, Fujimoto S, et al.	心身医療科	Effects of cognitive remediation on cognitive and social functions in individuals with schizophrenia.	Neuropsychol Rehabil. 2017 Dec 7:1-13.	Original Article
67	Kunii Y, Matsuda N, Yabe H.	心身医療科	A case of paroxysmal kinesigenic dyskinesia which exhibited the phenotype of anxiety disorder.	Neuropsychiatr Dis Treat. 2017 Aug 16;13:2181-2184.	Original Article
68	TERAWAKI Hiroyuki, HOSHI H, KAZAMA Junichiro J	腎臓高血圧内科学講座	Effect of switching xanthine oxidoreductase inhibitor from febuxostat to toproxostat on urinary protein excretion.	Clinical and Experimental Nephrology, 21(2), 356-357, 2017 Apr.	Original Article
69	KAZAMA Junichiro J	腎臓高血圧内科学講座	Chronic kidney disease and fragility fracture.	Clinical and Experimental Nephrology, 21(Suppl 1), 46-52, 2017 Mar.	Original Article
70	HAYASHI Yoshimitsu, NAGAI M, OHIRA T, et al.	腎臓高血圧内科学講座	The impact of evacuation on the incidence of chronic kidney disease after the Great East Japan Earthquake: The Fukushima Health Management Survey.	Clinical and Experimental Nephrology, 21(6), 995-1002, 2017.	Original Article
71	TANAKA Kenichi, WATANABE Tsuyoshi, TAKEUCHI A, et al.	腎臓高血圧内科学講座	CKD-JAC Investigators : Cardiovascular events and death in Japanese patients with chronic kidney disease.	Kidney International, 91(1), 227-234, 2017 Jan.	Original Article
72	WAKASUGI M, KAZAMA JJ, KAWAMURA K, et al.	腎臓高血圧内科学講座	Prevalence of Earlobe Creases and Their Association With History of Cardiovascular Disease in Patients Undergoing Hemodialysis: A Cross-Sectional Study.	Therapeutic Apheresis and Dialysis, 21(5), 478-484, 2017 Oct.	Original Article
73	WAKASUGI M, KAZAMA Junichiro J, NARITA I, et al.	腎臓高血圧内科学講座	Premature mortality due to nephrotic syndrome and the trend in nephrotic syndrome mortality in Japan, 1995-2014.	Clinical and Experimental Nephrology. 2018 Feb;22(1):55-60. Doi:10.1007/s10157-017-1417-6 [Epub 2017 may 6]	Original Article
74	Shimabukuro M, Tanaka A, Sata M, et al.	糖尿病内分泌代謝内科学講座	α -Glucosidase inhibitor miglitol attenuates glucose fluctuation, heart rate variability and sympathetic activity in patients with type 2 diabetes and acute coronary syndrome: a multicenter randomized controlled (MACS) study.	Cardiovascular Diabetology, 16(1), 86, 2017 Jul. DOI: 10.1186/s12933-017-0571-1.	Original Article
75	Shimabukuro Michio	糖尿病内分泌代謝内科学講座	Adiponectin and T-Cadherin: a Tree for Biomarkers in ST-Elevation or Non-ST-Elevation Myocardial Infarction.	Journal of Atherosclerosis and Thrombosis, 24(8), 788-790, 2017 Aug.	Original Article
76	Hirai H, Kanno M, Watanabe T, et al.	糖尿病内分泌代謝内科学講座	Kidney dysfunction following adrenalectomy in autosomal dominant polycystic kidney disease complicated with primary aldosteronism: A case report.	Experimental and Therapeutic Medicine, 14(2), 1235-1240, 2017 Aug.	Case report

小計19件

77	Kazunoshin Tachibana, Motonobu Saito, Jun-Ichi Imai, et al.	Department of Organ Regulatory Surgery.	Clinicopathological examination of dipeptidase 1 expression in colorectal cancer.	Biomedical Reports.2017; 6(4); 423-428	Original Article
78	Kazunoshin Tachibana, Masahiko Shibata, Kenji Gonda, et al.	Department of Breast Surgery	IL-17 and VEGF are increased and correlated to systemic inflammation, immune suppression involving MDSC and malnutrition in patients with breast cancer.	European Journal of Inflammation.2017; 15(3); 219-228.	Original Article
79	Sato T, Bakhit MS, Suzuki K, et al.	脳神経外科	Utility and safety of a novel surgical microscope laser light source	Plos One 13 (2): e019211, 2018	Original Article
80	Iwatate K, Yokoo T, Iwatate E, et al.	脳神経外科	Population characteristics and progressive disability in neurofibromatosis type 2	World Neurosurg 106: 653-660, 2017	Original Article
81	Iwami K, Fujii M, Saito K	脳神経外科	Occipital transtentorial/falcine approach, a "cross-court" trajectory to accessing contralateral posterior thalamic lesions: a technical case report	J Neurosurg 127:165-170, 2017	Original Article
82	Ishibashi Kei, Tobias Haber, Ines Breuksch, et al	泌尿器科 准教授	Overriding TKI resistance of renal cell carcinoma by combination therapy with IL-6 receptor blockade.	Oncotarget. 8. 33. 55230-55245. 2017.	Original Article
83	Haga Nobuhiro, Takinami Ruriko, Tanji Ryo, et al	泌尿器科 講師	Comprehensive approach for post-prostatectomy incontinence in the era of robot-assisted radical prostatectomy.	FUKUSHIMA JOURNAL OF MEDICAL SCIENCE. 63. 2. 90-99. 2017.	Review
84	Hoshi Seiji, Sato Yuichi, Hata Junya, Akaihata Hidenori,	泌尿器科 助手	Infrarenal high intra-abdominal testis: fusion of T2-weighted and diffusion-weighted magnetic resonance images and pathological findings.	Bio Med Central Urology. 2017. Aug 24;17(1):66	Original Article
85	Ogawa Soichiro, Hoshi Seiji, Koguchi Tomoyuki, et al	泌尿器科 講師	Three-layer Two-step Posterior Reconstruction using Peritoneum during Robot-Assisted Radical Prostatectomy to Improve Recovery of Urinary Continence- Prospective comparative study.	Journal of Endourology. 31. 12. 1251-1257. 2017.	Original Article
86	Yamamoto T, Kawakami Y.	皮膚科	Candida albicans-induced pustular lesions in mice.	J Dermatol 44; 596-597, 2017.	Original Article
87	Yamamoto T.	皮膚科	Intradermal injections of bleomycin to model skin fibrosis.	Methods Mol Biol 1627; 43-47, 2017.	Review
88	Ito H, Kawaguchi H, Kodaka F et al.	医学部放射線医学講座	Normative data of dopaminergic neurotransmission functions in substantia nigra measured with MRI and PET: Neuromelanin, dopamine synthesis, dopamine transporters, and dopamine D2 receptors	Neuroimage 2017 Sep; 158: 12-17	Original Article
89	Ito H, Ikoma Y, Seki C et al	医学部放射線医学講座	Visual evaluation of kinetic characteristics of PET probe for neuroreceptors using a two-phase graphic plot analysis	Ann Nucl Med 2017 May; 31: 273-282	Original Article
90	Sato H, Niimi A, Yasuhara T, et al	放射線治療科	DNA double-strand break repair pathway regulates PD-L1 expression in cancer cells.	Nature communications 8(1),1751号 2017.11.24	Original Article
91	Tamaki T, Miyaura K, Murakami T, Kumazaki Y, Suzuki Y, Nakano T, Kato S	放射線治療科	The use of trans-aplicator intracavitary ultrasonography in brachytherapy for cervical cancer: phantom study of a novel approach to 3D image-guided brachytherapy.	Journal of Contemporary Brachytherapy.9(2), 151-157 2017	Original Article
92	Sato H, Suzuki Y, Yoshimoto Y, et al	放射線治療科	An abscopal effect in a case of concomitant treatment of locally and peritoneally recurrent gastric cancer using adoptive T-cell immunotherapy and radiotherapy.	Clinical Case Reports. 5, 380-384, 2017	Case Report
93	Sato H, Yoshimoto Y, Suzuki Y	放射線治療科	【腫瘍に対する放射線治療-高度化・個別化治療へ】放射線治療による抗腫瘍免疫誘導機序	日本臨床 75(8), 1289-1293, 2017	総説
94	Yoshimoto Y, Suzuki Y	放射線治療科	【免疫療法の新しい展開】免疫療法を含む併用療法 免疫療法と放射線療法の併用	がん分子標的治療, 15(2), 164-168, 2017	総説
95	Sato H, Yoshimoto Y, Suzuki Y	放射線治療科	【放射線治療-最近の話題-】放射線治療により誘導される抗腫瘍免疫と"免疫放射線療法"	臨床放射線, 62(12), 1663-1671, 2017	総説
96	Shirai K, Saitoh JI, Musha A, Abe T, et al	放射線治療科	Prospective observational study of carbon-ion radiotherapy for non-squamous cell carcinoma of the head and neck.	Cancer Sci. 2017 Oct;108(10):2039-2044. doi: 10.1111/cas.13325. Epub 2017 Aug 17.	Similar article

小計20件

97	Ohno T, Noda SE, Okonogi N, et al	放射線治療科	In-room computed tomography-based brachytherapy for uterine cervical cancer: results of a 5-year retrospective study.	J Radiat Res. 2017 Jul 1;58(4):543-551. doi: 10.1093/jrr/rrw121.	Similar article
98	Tamaki T, Miyaura K, Murakami T, et al	放射線治療科	The use of trans-appligator intracavitary ultrasonography in brachytherapy for cervical cancer: phantom study of a novel approach to 3D image-guided brachytherapy.	J Contemp Brachytherapy. 2017 Apr;9(2):151-157. doi: 10.5114/jcb.2017.66588. Epub 2017 Mar 15.	Similar article
99	Mochizuki K, Sano H, Akaihata M, et al.	小児腫瘍内科	T cell replete-haploidentical second hematopoietic stem cell transplantation for primary graft failure in pediatric patients with hematologic malignancies.	Pediatr Transplant. 2017 Nov; 21(7): e13043	Original Article
100	Kobayashi S, Sano H, Mochizuki K, et al.	小児腫瘍内科	Pre-emptive rituximab for Epstein-Barr virus reactivation after haplo-hematopoietic stem cell transplantation.	Pediatr Int. 2017 Sep; 59(9):973-978	Original Article
101	Hoshi A, Tsunoda A, Yamamoto T他	神経内科	Altered expression of glutamate transporter-1 and water channel protein aquaporin-4 in human temporal cortex with Alzheimer's disease.	Neuropathol Appl Neurobiol. 2018 Oct;44(6):628-638	Original Article
102	Hanajima R, Tanaka N, Tsutsumi R, et al.	神経内科	The effect of age on the homotopic motor cortical long-term potentiation-like effect induced by quadripulse stimulation	Exp Brain Res. 2017 Jul;235(7):2103-2108	Original Article
103	Matsumoto H, Ugawa Y	神経内科	Adverse events of tDCS and-tACS: A review.	Clinical Neurophysiology Practice 2 (2017) 19-25.	Original Article
104	Huang Y, Lu M, Antal A, et al.	神経内科	Plasticity induced by non-invasive transcranial brain stimulation: a position paper.	Clin Neurophysiol 128 (2017) 2318-2329	Original Article
105	Iwamuro H, Tachibana Y, Ugawa Y, Saito N, Nambu A	神経内科	Information processing from the motor cortices to the subthalamic nucleus and globus pallidus and their somatotopic organizations revealed electrophysiologically in monkeys.	Eur J Neurosci 2017 Dec;46(11):2684-2701	Original Article
106	Sasaki T, Kodama S, Togashi N, et al.	神経内科	The intensity of continuous theta burst stimulation, but not the waveform used to elicit motor evoked potentials, influences its outcome in the human motor cortex.	Brain Stimul. 2018 Mar - Apr;11(2):400-410. doi: 10.1016/j.brs.2017.12.003. Epub 2017 Dec 15.	Original Article
107	Sasaki T, Kodama S, Togashi N, et al.	神経内科	Distinguishing spinocerebellar ataxia with pure cerebellar manifestation from multiple system atrophy (MSA-C) through saccade profiles	Clin Neurophysiol 2017;128(1):31-43	Original Article
108	Shin-ichi Tokushige, Yasuo Terao, Shunichi Matsuda, et al.	神経内科	Does the clock tick slower or faster in Parkinson's disease? -insights gained from the synchronized tapping task. Frontiers in Psychology.	Front Psychol. 2018 Jul 11;9:1178. doi: 10.3389/fpsyg.2018.01178. eCollection 2018.	Original Article
109	Isosu T, Obara S, Hakozaki T, et al.	集中治療部	Effects of indigo carmine intravenous injection on noninvasive and continuous total hemoglobin measurement with using the Revision L sensor.	Journal of Clinical Monitoring and Computing 2017 Apr; 31:485-6	Letter
110	Imaizumi T, Obara S, Mogami M, et al.	集中治療部	Population pharmacokinetics of intravenous acetaminophen in Japanese patients undergoing elective surgery.	Journal of Anesthesia 2017 Jun; 31:38-8	Original Article

合計110件

- (注) 1 当該特定機能病院に所属する医師等が前年度に発表した英語論文のうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断されるものを七十件以上記入すること。七十件以上発表を行っている場合には、七十件のみを記載するのではなく、合理的な範囲で可能な限り記載すること。
- 2 報告の対象とするのは、筆頭著者の所属先が当該特定機能病院である論文であり、査読のある学術雑誌に掲載されたものに限るものであること。ただし、実態上、当該特定機能病院を附属している大学の講座等と当該特定機能病院の診療科が同一の組織として活動を行っている場合においては、筆頭著者の所属先が大学の当該講座等であっても、論文の数の算定対象に含めるものであること(筆頭著者が当該特定機能病院に所属している場合に限る。)
- 3 「発表者氏名」に関しては、英文で、筆頭著者を先頭に論文に記載された順に3名までを記載し、それ以上は、他、またはet al.とする。
- 4 「筆頭著者の所属」については、和文で、筆頭著者の特定機能病院における所属を記載すること。
- 5 「雑誌名・出版年月等」欄には、「雑誌名 出版年月(原則雑誌掲載月とし、Epub ahead of printやin pressの掲載月は認めない); 巻数: 該当ページ」の形式で記載すること
(出版がオンラインのみの場合は雑誌名、出版年月(オンライン掲載月)の後に(オンライン)と明記すること)。
記載例: Lancet. 2015 Dec; 386: 2367-9 / Lancet. 2015 Dec (オンライン)
- 6 「論文種別」欄には、Original Article、Case report、Review、Letter、Othersから一つ選択すること。

(2)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象とならない論文(任意)

番号	発表者氏名	著者等の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
1	Ono Y, Sakamoto K	救急科	Lipopolysaccharide inhibits myogenic differentiation of C2C12 myoblasts through the Toll-like receptor 4-nuclear factor- κ B signaling pathway and myoblast-derived tumor necrosis factor- α	PLoS One.2017/7;12	Original Article
2	Ono Y, Tanigawa K, Shinohara K, 他	救急科	Human and equipment resources for difficult airway management, airway education programs, and capnometry use in Japanese emergency departments: a nationwide cross-sectional study.	Int J Emerg Med.2017/9;13:28	Original Article
3	Ono Y, Ono N, Shinohara K.	救急科	Tissue Hypoperfusion, Hypercoagulopathy, and Kidney and Liver Dysfunction after Ingestion of a Naphazoline-Containing Antiseptic.	Case Rep Emerg Med.2017/5	Case report
4	Ono Y, Kunii M, Miura T, 他	救急科	"Cannot ventilate, cannot intubate" situation after penetration of the tongue root through to the epipharynx by a surfboard: a case report.	J Med Case Rep.2017/5;11:121	Case report
5	堀切 将	形成外科	Comparison of Emla Cream and Topical Lidocaine Tape for Pain Relief of V-Beam Laser Treatment	J Plast Surg Hand Surg 2017年6月	Original Article
6	室野重之	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	<論説>喉頭乳頭腫に対する薬物療法	耳鼻咽喉科臨床・2017年4月, 110(4):227-236	Review
7	松塚 崇, 鈴木政博, 仲江川雄太,他	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	早期口腔癌における頸部の取扱い	頭頸部癌・2017年10月, 43(3):328-332	Original Article
8	Saji S.	腫瘍内科学講座	The long and winding road for overcoming resistance to hormone therapy in breast cancer.	Breast Cancer. 25(4):377-378, 2018.	Letter
9	Kimura-Tsuchiya R, Sasaki E, Nakamura J, et al	腫瘍内科学講座	A case of squamous cell carcinoma of unknown primary that responded to multi-tyrosine kinase inhibitor lenvatinib.	Case Rep Oncol 2018;11:75-80	Case report
10	角田圭一	小児外科	Retroperitoneal venous malformation	Journal of Pediatric Surgery Case Reports, 2018年2月 on line	Case report
11	Watanabe K, Hikichi T, Nakamura J, et al	内視鏡診療部	Feasibility of esophageal stent fixation with an over-the-scope-clip for malignant esophageal strictures to prevent migration	Endosc Int Open. 2017 Oct; 5: E1044-E1049	Original Article
12	Sugimoto M, Takagi T, Suzuki R, et al	消化器内科学講座	Endoscopic ultrasonography-guided fine needle aspiration can be used to rule out malignancy in autoimmune pancreatitis patients	J Ultrasound Med, 2017 Jul; 36: 2237-2244	Original Article
13	Sugimoto M, Takagi T, Konno N, et al	消化器内科学講座	Predictive factors for the failure of endoscopic stent-in-stent self-expandable metallic stent placement to treat malignant hilar biliary obstruction	World J Gastroenterol, 2017 Sep; 23: 6273-6280	Original Article
14	Takasumi M, Hikichi T, Takagi T, et al	消化器内科学講座	Efficacy of endoscopic ultrasound-guided fine-needle aspiration for schwannoma: six cases of a retrospective study	Fukushima J Med Sci, 2017 Aug; 63: 75-80	Original Article
15	Sugimoto M, Takagi T, Suzuki R, et al	消化器内科学講座	Contrast-enhanced harmonic endoscopic ultrasonography in gallbladder cancer and pancreatic cancer	Fukushima J Med Sci, 2017 July; 63: 39-45	Original Article
16	Nakamura J, Hikichi T, Watanabe K, et al	内視鏡診療部	Feasibility of short-period, high-dose intravenous methylprednisolone for preventing stricture after endoscopic submucosal dissection for esophageal cancer:	Gastroenterology Research and Practice, 2017, (オンライン)	Original Article
17	Watanabe K, Hikichi T, Nakamura J, et al	内視鏡診療部	Endoscopic submucosal dissection for early gastric cancer in very elderly patients eighty-five years of age or older	Endosc Int Open. 2017 Jan; 05; E17-E24	Original Article
18	Murakami Y, Ichikawa M, Bakhit M, et al.	脳神経外科	Palliative shunt surgery for patients with leptomeningeal metastasis	Clin Neurol Neurosurg 168: 175-178, 2018	Original Article
19	Bakhit MS, Fujii M, Jinguji S, et al.	脳神経外科	Jugular foramen collision tumor (schwannoma and plasma cell pseudotumor), a probable IgG4-related disease	World Neurosurg 102: 694.e9-694.e13	Case report

20	Ohashi T, Miura T, Yamamoto T.	皮膚科	Auricular pyoderma gangrenosum with penetration in a patient with rheumatoid arthritis.	Int J Rheum Dis 21; 563-565, 2018.	Case report
21	Mori T, Yamamoto T.	皮膚科	Tocilizumab-induced pustular drug eruption.	Int J Rheum Dis 20; 1776-1777, 2017.	Case report
22	Yamamoto T, Yokozeki H.	皮膚科	Discoid lupus erythematosus in a patient with myasthenia gravis.	Int J Rheum Dis 20; 1812-1813, 2017.	Case report
23	Mori T, Hiraiwa T, Ohashi T, 他	皮膚科	Clinicopathological analysis of mechanic's hand associated with dermatomyositis.	Australas J Dermatol [Epub ahead of print]	Original Article
24	Hiraiwa T, Yamamoto T.	皮膚科	Nail involvement associated with palmoplantar pustulosis.	Int J Dermatol 56; e28-29, 2017.	Original Article
25	Yamamoto T, Ohtsuka M.	皮膚科	Periorbital edema as an initial sign of systemic lupus erythematosus in an adolescent girl.	Int J Rheum Dis 20; 1814-1815, 2017.	Case report
26	Yamamoto T, Nishibu A, Eishi Y.	皮膚科	Transepidermal elimination of sarcoidal granuloma in the lesional skin of psoriasiform sarcoidosis.	J Dermatol 44; 100-101, 2017.	Case report
27	Ohashi T, Suzuki Y, Yamamoto T.	皮膚科	Use of biologics for peripheral pustulotic arthro-osteitis in two patients with palmoplantar pustulosis.	J Dermatol 44; 97-98, 2017.	Case report
28	Miura T, Yamamoto T.	皮膚科	Alopecia, halo veni, and vitiligo in a pediatric case of Turner's syndrome.	J Dermatol 44; 217-219, 2017.	Case report
29	Miura T, Ohtsuka M, Yamamoto T.	皮膚科	Sweet's syndrome-like eruption in association with the exacerbation of Behçet's disease after the Great East Japan Earthquake.	Actas Dermosifiliogr 108; 70-72, 2017.	Case report
30	Ohashi T, Yamamoto T.	皮膚科	Eccrine poroma with calcification and metaplastic ossification.	J Dermatol 44; 345-346, 2017.	Case report
31	Mori T, Yamamoto T.	皮膚科	Genital prokeratosis with amyloid deposition mimicking extra-mammary Paget's disease.	Clin Exp Dermatol 42; 336-338, 2017.	Case report
32	Yamamoto T, Hirano M, Ueda K.	皮膚科	Eccrine angiomatous hamartoma in a patient with nevus depigmentosus and nevus spilus.	Indian J Dermatol 62; 99-100, 2017.	Case report
33	Mori T, Yamamoto T.	皮膚科	Lichen aureus with linear distribution following fungal infection: a peculiar form of id reaction?	Our Dermatol Online 8; 106-107, 2017.	Case report
34	Ohtsuka M, Miura T, Yamamoto T.	皮膚科	Clinical characteristics, differential diagnosis, and treatment outcome of subcutaneous panniculitis-like T-cell lymphoma: a literature review of published Japanese cases.	Eur J Dermatol 27; 34-41, 2017.	Original Article
35	Igari S, Hiraiwa T, Kikuchi N, 他	皮膚科	Non-pigmented basal cell carcinoma occurring within a widespread vitiliginous lesion.	J Dermatol 44; e99-e100, 2017.	Case report
36	Matsumura N, Yamamoto T.	皮膚科	Lichen amyloidosis in a patient with chronic renal failure and dialysis.	Our Dermatol Online 8; 237-238, 2017.	Case report
37	Yamamoto T, Ohtsuki M, Sano S, 他	皮膚科	Prevalence and current therapies of psoriatic arthritis in Japan: a survey by the Japanese Society of Psoriasis Research in 2016.	J Dermatol 44; e121, 2017.	Original Article
38	Hanami Y, Yamamoto T.	皮膚科	Eruptive xanthoma with isomorphic response of Koebner in a construction worker with severe hyperlipidemia.	J Dermatol 44; e162-e163, 2017.	Case report
39	Kato Y, Yamamoto T.	皮膚科	Development of psoriasis with relapse of dermatomyositis-associated interstitial lung disease.	Int J Rheum Dis 20; 660-661, 2017.	Case report
40	Miura T, Ohtsuka M, Yamamoto T.	皮膚科	Post-scabetic nodules.	J Dermatol 44; e210-e211, 2017.	Case report
41	Matsumura N, Yamamoto T.	皮膚科	Lipomembranous changes (membrano-cystic lesions) in the extremities of a patient with systemic sclerosis.	Our Dermatol Online 9; 105-106, 2018.	Case report

42	Kikuchi N, Ohashi T, Yamamoto T.	皮膚科	Periorbital xanthoma-like amyloidosis in a patient with multiple myeloma-associated systemic amyloidosis.	Eur J Dermatol (in press)	Case report
43	Ito T, Kikuchi N, Ueda K, 他	皮膚科	Basal cell carcinoma on the bilateral axillae: a report of axillary onset basal cell carcinoma from a single institute in Japan.	Int J Dermatol 56; 1492-1494, 2017.	Case report
44	Hiraiwa T, Hanami Y, Yamamoto T.	皮膚科	Six cases of Henoch-Schönlein purpura-like eruption induced by epidermal growth factor receptor inhibitor.	Our Dermatol Online 9; 89-90, 2018.	Original Article
45	Satoh M, Yamamoto T.	皮膚科	Case of recalcitrant nail psoriasis unresponsive to adalimumab but successfully treated with infliximab.	J Dermatol 44; e288-e289, 2017.	Case report
46	Kikuchi N, Ohashi T, Miura T, 他	皮膚科	Triple cancers concurrently detected in a case of anti-transcriptional intermediary factor-1 α antibody-positive dermatomyositis.	Int J Dermatol 56; 1516-1517, 2017.	Case report
47	Ishikawa M, Yamamoto T.	皮膚科	Wong-type dermatomyositis: A first report from Japan.	J Dermatol 44; e336-e337, 2017.	Case report
48	Mori T, Yamamoto T.	皮膚科	Dactylitis in sarcoidosis.	J Dermatol 44; e340-e341, 2017.	Case report

計48件

- (注) 1 当該医療機関に所属する医師等が前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
- 2 記載方法は、前項の「高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文」の記載方法に準じること。

(様式第 3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

3 高度の医療技術の開発及び評価の実施体制

(1) 倫理審査委員会の開催状況

① 倫理審査委員会の設置状況	有・無
② 倫理審査委員会の手順書の整備状況	有・無
・ 手順書の主な内容 倫理審査申請から研究実施までの流れ、倫理申請手続きについて 研究実施中に研究者が対応する事項について	
③ 倫理審査委員会の開催状況	年 24 回

(注) 1 倫理審査委員会については、「臨床研究に関する倫理指針」に定める構成である場合に「有」に○印を付けること。
2 前年度の実績を記載すること。

(2) 利益相反を管理するための措置

① 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の設置状況	有・無
② 利益相反の管理に関する規定の整備状況	有・無
・ 規定の主な内容 本法人及び役職員が、産学官連携活動を行うにあたり、発生する利益相反状態を適正にマネジメントする事を目的とする。 利益相反マネジメント体制、審議対象事象等	
③ 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の開催状況	年 17 回

(注) 前年度の実績を記載すること。

(3) 臨床研究の倫理に関する講習等の実施

① 臨床研究の倫理に関する講習等の実施状況	年 10 回
・ 研修の主な内容 「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針等」について	

「研究を開始する場合」について

(注) 前年度の実績を記載すること。

(様式第 4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

1 研修の内容

1 後期研修プログラムの特徴

- (1) コース制を導入し、コースディレクターの指導により専門医研修を受ける。
- (2) 当院と研修協力病院が共同で研修を行い、専門医資格取得に必要な多くの症例・症状等を経験できる。
- (3) 総合内科・外科専門医コースでは、専門医資格取得に必要な症例を確保するため、臓器別ローテーションを実施する。
- (4) 大学院生・大学院研究生との併願を認めており、専門医と博士号の同時取得が可能である。

2 後期研修プログラムの管理・運営組織

研修の最終責任者は、当院の病院長であり、研修修了の認定は病院長が行う。

- (1) 病院長のもとに、後期研修管理委員会を設置し、次の事項を行うこととする。
 - ア 後期研修プログラムの全体的な管理
 - イ 後期研修者の全体的な管理
 - ウ 後期研修者の研修状況の評価
 - エ 採用時における後期研修希望者の評価
 - オ 後期研修後及び中断後の進路について、相談等の支援を行うこと
- (2) 委員会は、次に掲げる委員をもって組織する。
 - ア 病院長
 - イ 副病院長（教育研修担当）
 - ウ 部長会で選任したコースディレクター 4名
 - エ 医療人育成・支援センター 臨床医学教育研修部門長
 - オ 事務局次長（業務担当）
 - カ その他病院長が必要と認める者
- (3) 委員長は必要があると認める場合、後期研修管理委員会のもとに、コースディレクター会議を招集することができる。
- (4) 委員長は、研修協力病院等との円滑な連絡調整等を行うため、研修協力病院・施設連絡会議を招集することができる。

3 研修期間

- (1) 研修期間は、卒後臨床研修修了後 4 年以内とし、協力病院での期間を含む。ただし、原則として研修期間のうち 1 年以上は、当院において研修する。
- (2) (1) にかかわらず、出産・留学等により、研修を中断した期間は、研修期間に含めない。

4 指導体制

後期研修者は研修期間中、後期研修管理委員会において管理され、コースディレクター・副コースディレクターの指導のもと研修を受ける。

5 後期研修の評価

各コースで定めた評価項目に基づき、コースディレクター・副コースディレクターは評価を行う。研修終了時に、この評価資料をもとに、後期研修管理委員会が最終的な評価を行い、病院長に上申する。

病院長は研修を修了したと認定された後期研修者に対して、病院長名で後期研修修了証を授与する。

2 研修の実績

研修医の人数	109.6人
--------	--------

(注) 前年度の研修医の実績を記入すること。

3 研修統括者

研修統括者氏名	診療科	役職等	臨床経験年数	特記事項
竹石 恭知	循環器内科	部長	31年	
池添 隆之	血液内科	部長	26年	
大平 弘正	消化器内科	部長	31年	
右田 清志	リウマチ・膠原病内科	部長	35年	
風間 順一郎	腎臓・高血圧内科	部長	31年	
島袋 充生	糖尿病・内分泌代謝内科	部長	31年	
金井 数明	神経内科	部長	19年	
柴田 陽光	呼吸器内科	部長	27年	
濱口 杉大	総合内科	部長	23年	
鈴木 弘行	呼吸器外科	部長	28年	
河野 浩二	消化管外科	部長	31年	
丸橋 繁	肝胆膵・移植外科	部長	24年	
大竹 徹	乳腺外科	部長	28年	
田中 秀明	小児外科	部長	26年	
鈴木 眞一	甲状腺・内分泌外科	部長	35年	
横山 斉	心臓血管外科	部長	35年	
佐久間 潤	脳神経外科	部長	28年	
紺野 慎一	整形外科	部長	34年	
小山 明彦	形成外科	部長	27年	
藤森 敬也	産科	部長	30年	
渡邊 尚文	婦人科	部長	22年	
細谷 光亮	小児科	部長	35年	
菊田 敦	小児腫瘍内科	部長	37年	
石龍 鉄樹	眼科	部長	34年	
山本 俊幸	皮膚科	部長	30年	
小島 祥敬	泌尿器科・副腎内分泌外科	部長	23年	
室野 重之	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	部長	26年	
矢部 博興	心身医療科	部長	35年	
伊藤 浩	放射線科	部長	29年	
鈴木 義行	放射線治療科	部長	23年	
村川 雅洋	麻酔・疼痛緩和科	部長	38年	
橋本 優子	病理診断科	部長	26年	
長谷川 博	歯科口腔外科	部長	30年	
伊関 憲	救急科	部長	23年	
大井 直往	リハビリテーション科	部長	36年	
志村 浩巳	検査部	部長	32年	

(注) 1 医療法施行規則第六条の四第一項又は第四項の規定により、標榜を行うこととされている診療科については、必ず記載すること。

(注) 2 内科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。

(注) 3 外科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。

(様式第 4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

4 医師、歯科医師以外の医療従事者等に対する研修

① 医師、歯科医師以外の医療従事者に対する研修の実施状況（任意）

任意のため報告は割愛

② 業務の管理に関する研修の実施状況（任意）

任意のため報告は割愛

③ 他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況

当院は「がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院」に該当せず。

(注) 1 高度の医療に関する研修について、前年度実績を記載すること。

(注) 2 「③他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況」については、医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院についてのみ記載すること。また、日本全国の医療機関に勤務する医療従事者を対象として実施した専門的な研修を記載すること。

(様式第5)

診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の管理方法に関する書類

計画・現状の別	1. 計画 (2) 現状
管理責任者氏名	病院長 齋藤 清
管理担当者氏名	医療情報部 門馬 智之

		保管場所	管理方法	
診療に関する諸記録	規則第二十二條の三第二項に掲げる事項	病院日誌	医療情報部等	患者ごと又は記録ごとに分類し管理・保管している。
		各科診療日誌		
		処方せん		
		手術記録		
		看護記録		
		検査所見記録		
		エックス線写真		
		紹介状		
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第二十二條の三第三項に掲げる事項	従業者数を明らかにする帳簿	病院経営課	
		高度の医療の提供の実績	医事課	
		高度の医療技術の開発及び評価の実績	医療安全管理部	
		高度の医療の研修の実績	教育研修支援課	
		閲覧実績	病院経営課	
	規則第一條の十一第一項に掲げる事項	紹介患者に対する医療提供の実績	医療連携・相談室	
		入院患者数、外来患者及び調剤の数を明らかにする帳簿	医事課	
		医療に係る安全管理のための指針の整備状況	医療安全管理部	
		医療に係る安全管理のための委員会の開催状況		
		医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況		
医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況				

		保管場所	管理方法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第一条の十一第二項第一号から第三号までに掲げる事項	院内感染対策のための指針の策定状況	感染制御部
		院内感染対策のための委員会の開催状況	感染制御部
		従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	感染制御部
		感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の実施状況	感染制御部
		医薬品安全管理責任者の配置状況	医薬品安全使用部会
		従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	医薬品安全使用部会
		医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	医薬品安全使用部会
		医薬品の安全使用のために必要となる未承認等の医薬品の使用の情報その他の情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	医薬品安全使用部会
		医療機器安全管理責任者の配置状況	臨床工学センター
		従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	臨床工学センター
		医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	臨床工学センター
		医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	臨床工学センター

		保管場所	管理方法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第九条の二十の二第一項第一号から第十三号まで及び第十五条の四各号に掲げる事項	医療安全管理責任者の配置状況	医療安全管理部
		専任の院内感染対策を行う者の配置状況	感染制御部
		医薬品安全管理責任者の業務実施状況	医薬品安全使用部会
		医療を受ける者に対する説明に関する責任者の配置状況	医療安全管理部
		診療録等の管理に関する責任者の選任状況	医療情報部
		医療安全管理部門の設置状況	医療安全管理部
		高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の状況	医療安全管理部
		未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の状況	医療安全管理部
		監査委員会の設置状況	病院経営課
		入院患者が死亡した場合等の医療安全管理部門への報告状況	医療安全管理部
		他の特定機能病院の管理者と連携した相互立入り及び技術的助言の実施状況	医療安全管理部
		当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	医療安全管理部
		医療安全管理の適正な実施に疑義が生じた場合等の情報提供を受け付けるための窓口の状況	医療安全管理部
		職員研修の実施状況	医療安全管理部等
		管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者のための研修の実施状況	医療安全管理部等
管理者が有する権限に関する状況	病院経営課		
管理者の業務が法令に適合することを確保するための体制の整備状況	総務課		
開設者又は理事会等による病院の業務の監督に係る体制の整備状況	総務課		

(注)「診療に関する諸記録」欄には、個々の記録について記入する必要はなく、全体としての管理方法の概略を記入すること。また、診療録を病院外に持ち出す際に係る取扱いについても記載すること。

(様式第 6)

病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法に関する書類

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法

計画・現状の別	1. 計画	<input checked="" type="radio"/> 2. 現状	
閲覧責任者氏名	病院長 齋藤 清		
閲覧担当者氏名	病院経営課長 佐藤 博		
閲覧の求めに応じる場所	きぼう棟3階 病院経営課		
閲覧の手続の概要			
閲覧の請求があった場合は、院内の規程に基づき諸記録の閲覧もしくは提供を行っている。			

(注)既に医療法施行規則第9条の20第5号の規定に合致する方法により記録を閲覧させている病院は現状について、その他の病院は計画について記載することとし、「計画・現状の別」欄の該当する番号に○印を付けること。

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧の実績

前年度の総閲覧件数	延	0件
閲覧者別	医師	延 0件
	歯科医師	延 0件
	国	延 0件
	地方公共団体	延 0件

(注)特定機能病院の名称の承認申請の場合には、必ずしも記入する必要はないこと。

規則第1条の11第1項各号に掲げる医療に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療に係る安全管理のための指針の整備状況	有
<ul style="list-style-type: none"> ・ 指針の主な内容： <ol style="list-style-type: none"> 1 医療安全管理に関する基本的考え方 2 医療安全管理委員会その他の組織に関する基本的事項 3 医療に係る安全管理のための従業者に対する研修に関する基本方針 4 事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策に関する基本方針 5 医療事故等発生時の対応に関する基本方針 6 医療従事者と患者との間の情報の共有に関する基本方針 7 患者からの相談への対応に関する基本方針 8 その他医療安全の推進のために必要な基本方針 (高難度新規医療技術を用いた医療を提供する場合には、関係学会から示される「基本的考え方」、ガイドライン等を参考に実施することを含む。) 	
② 医療に係る安全管理のための委員会の設置及び業務の状況	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 設置の有無 (有) ・ 開催状況：年12回 ・ 活動の主な内容： <ol style="list-style-type: none"> 1 委員会の管理及び運営規定の策定・改正 2 医療安全対策の承認、決定 3 重大な問題が発生した場合の原因分析、改善策の立案と実施及び職員への周知 4 医療安全に関するマニュアルの改訂 	
③ 医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	年4回
<ul style="list-style-type: none"> ・ 研修の内容(すべて)： <p>職員の安全に対する意識、安全に業務を遂行するための技能やチームの一員としての意識向上を図るため、全職員を対象に下記の研修を実施した。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 外部講師(独立行政法人医薬品医療機器総合機構)による医薬品副作用被害救済制度に関する講和 2 医療安全、感染対策、医薬品、医療機器、災害医療に関すること(年2回) 3 死因究明からみた医療の安全について 	
④ 医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の実施状況	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 医療機関内における事故報告等の整備 (有) ・ その他の改善のための方策の主な内容： <ol style="list-style-type: none"> 1 当院で発生した事故を委員会に報告する。 2 当院の「医療事故防止マニュアル」に従い事例の収集・分析を行う。把握された問題点について病院組織として改善策を策定し、必要に応じ実施状況を調査する。これらの情報は院内に周知を図っている。 3 重大な事故発生の場合は、速やかに管理者へ報告する。 	

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第1条の11第2項第1号に掲げる院内感染対策のための体制の確保に係る措置

① 院内感染対策のための指針の策定状況	有
<ul style="list-style-type: none"> ・ 指針の主な内容： <ol style="list-style-type: none"> 1. 感染管理に関する基本的な考え方 2. 院内感染管理のための委員会等 3. 院内感染管理のための職員研修 4. 感染情報等に基づく院内感染管理を目的とした改善方策 5. 院内感染発生時等の対応 6. 患者等に対する本指針の閲覧 7. その他 	
② 院内感染対策のための委員会の開催状況	年12回
<ul style="list-style-type: none"> ・ 活動の主な内容： <ul style="list-style-type: none"> 毎月の耐性菌検出状況及び感染症発生状況報告 毎月のICTラウンド結果報告 指定抗菌薬長期使用者報告 抗菌薬適正使用支援チーム（AST）活動報告 各種院内感染対策マニュアル改訂案の協議・承認 アウトブレイク事例・ICT介入事例報告 各種サーベイランス結果報告 職員研修実施状況報告 <p style="text-align: right;">等</p>	
③ 従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	年24回
<ul style="list-style-type: none"> ・ 研修の内容（すべて）： <ul style="list-style-type: none"> 新採用者・中途採用者・復職者研修：（標準予防策・感染経路別予防策・職業感染予防策等の講義及び実習） 院内感染対策研修（外部講師）：難治性MRSA感染症に対するアプローチ 医療安全・感染管理合同研修：第1回：感染管理 嘔吐物処理セットの使用手順について 第2回：耐性菌 リンクナーススキルアップ研修（CRBSIサーベイランスについて） 第1種感染症病室説明会及び防護具着脱訓練 感染管理自己学習コース：標準予防策・感染経路別予防策について E-learning（スタンダードプリコーション・感染経路別予防策） BSI防止研修 新採用看護助手研修（病院で働くために行って欲しいこと） 委託職員研修（感染予防の基礎知識等） 	
④ 感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の状況	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 病院における発生状況の報告等の整備 （有） ・ その他の改善のための方策の主な内容： <ul style="list-style-type: none"> ICTラウンドによる現場状況チェックと改善指導・介入及び結果確認（定例：1回/週、その他耐性菌新規検出時随時ラウンド実施） 各種感染対策マニュアルの見直し・改訂作業 抗菌薬適正使用支援チーム（AST）による抗菌薬の使用状況把握と抗MRSA薬のTDM実施及びこれらの情報に基づく抗菌薬コンサルテーションの実施 BSI/UTI/VAE/耐性菌のサーベイランスによる問題抽出と分析、対策のフィードバック インフルエンザ発生動向調査および院内曝露患者への予防投与、ベッドコントロール、面会制限等、アウトブレイク予防対策の実施 	

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第1条の11第2項第2号に掲げる医薬品に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医薬品安全管理責任者の配置状況	有
② 従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	年2回
<ul style="list-style-type: none"> ・ 研修の主な内容： <ul style="list-style-type: none"> 平成29年6月27日 医療安全管理研修会「医薬品副作用被害救済制度」 平成30年3月7日、8日 医療安全管理合同研修会「薬剤に関すること」 	
③ 医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	<ul style="list-style-type: none"> ・ 手順書の作成 (有) ・ 手順書の内訳に基づく業務の主な内容： <ol style="list-style-type: none"> 1. 医薬品の安全使用のための業務手順書の改訂 2. 「セルフチェック表」による業務の実施状況の確認 3. 院内ラウンドによる実施状況の確認と指導
④ 医薬品の安全使用のために必要となる未承認等の医薬品の使用の情報その他の情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	<ul style="list-style-type: none"> ・ 医薬品に係る情報の収集の整備 (有) ・ 未承認等の医薬品の具体的な使用事例(あれば)： <ul style="list-style-type: none"> アミロイドイメージング用ポジトロン放射性アイソトープ ・ その他の改善のための方策の主な内容： <ol style="list-style-type: none"> 1. 未承認医薬品の使用の適否等を決定する部門として医療安全管理部に未承認医薬品評価室(室長：医薬品安全管理責任者)、未承認新規医薬品評価委員会を設置している。 2. 薬剤部副部長1名を医療安全管理部に専任配置している。 3. 医薬品情報管理室の専門薬剤技師を医薬品安全管理担当者に指名し、当該業務に従事している。 4. 診療科の部長は未承認新規医薬品を使用したすべての症例について、定期的に未承認医薬品評価室に報告する。 5. 未承認医薬品評価室は定期的に診療録等の確認を行い、その内容を病院長に報告する。

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第1条の11第2項第3号に掲げる医療機器に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療機器安全管理責任者の配置状況	有
② 従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	年98回
<ul style="list-style-type: none"> ・ 研修の主な内容： 輸液ポンプ等の使用頻度の高い医療機器に関しては、医療安全管理合同研修会を年2回開催している 特に安全使用に際して技術の習熟が必要と考えられる医療機器（人工心肺装置及び補助循環装置、人工呼吸器、血液浄化装置、除細動装置、閉鎖式保育器等）を中心とした研修会を部署ごとで実施している 	
③ 医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 医療機器に係る計画の策定 (有) ・ 機器ごとの保守点検の主な内容： 医療機器の始業時や終業時の日常点検と定期点検 点検報告書の作成と保管 外部委託点検の実施 	
④ 医療機器の安全使用のために必要となる未承認等の医療機器の使用の状況その他の情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 医療機器に係る情報の収集の整備 (有) ・ 未承認等の医療機器の具体的な使用事例（あれば）： 聴性脳幹インプラント（コクレア社）平成29年4月19日 ・ その他の改善のための方策の主な内容： PMDAやm3等の医療専門サイトを毎日確認し、重要なお知らせについては個別にメールが送られるよう登録し、情報の収集を行っている 周知が必要な情報や院内インシデントの事例に対する対策を周知するため、「臨床工学センターからのお知らせ」を作成し院内に配布し、安全性情報の伝達を行っている 	

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第9条の20の2第1項第1号から第13号に掲げる事項の実施状況

① 医療安全管理責任者の配置状況	有
<p>・責任者の資格 (医師) 歯科医師)</p> <p>・医療安全管理責任者による医療安全管理部門、医療安全管理委員会、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者の統括状況</p> <p>「福島県立医科大学附属病院医療安全管理指針」により、医療安全管理責任者が、医療安全管理部門、医療事故防止対策委員会、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者の業務を統括するものとしている。</p>	
② 専任の院内感染対策を行う者の配置状況	有 (4名)
<p>③ 医薬品安全管理責任者の業務実施状況</p> <p>・医薬品に関する情報の整理・周知に関する業務の状況</p> <p>入手した情報については、毎月DIニュースで定期的に院内に周知している。また緊急性のある情報は、院内緊急メール、電子カルテ掲示板、DIニュース号外、院内報等の適切な媒体により随時周知している。</p> <p>・未承認等の医薬品の使用に係る必要な業務の実施状況</p> <ol style="list-style-type: none"> 診療科の部長は未承認新規医薬品を使用したすべての症例について、定期的に未承認医薬品評価室に報告する。 未承認医薬品評価室は定期的に診療録等の確認を行い、その内容を病院長に報告する。 薬剤部の病棟・外来、調剤、注射及び製剤担当者は当該使用に該当すると判断した場合には、「適応外・禁忌等の処方に係る報告票」に必要事項を記載して、医薬品安全管理担当者に提出する。 医薬品安全管理担当者は、報告された症例を毎月確認し、その内容を薬剤部リスクマネージャー、医療安全管理部担当薬剤師及び医薬品安全管理責任者に報告する。 医薬品安全管理責任者は、当該情報を医療事故防止対策委員会等に報告する。 <p>・担当者の指名の有無 (有)</p> <p>・担当者の所属・職種：</p> <p>(所属：薬剤部 ， 職種 薬剤師) (所属： ， 職種)</p> <p>(所属： ， 職種) (所属： ， 職種)</p> <p>(所属： ， 職種) (所属： ， 職種)</p> <p>(所属： ， 職種) (所属： ， 職種)</p>	
④ 医療を受ける者に対する説明に関する責任者の配置状況	有

<ul style="list-style-type: none"> ・医療の担い手が説明を行う際の同席者、標準的な説明内容その他説明の実施に必要な方法に関する規程の作成の有無 (有) ・説明等の実施に必要な方法に関する規程に定められた事項の遵守状況の確認、及び指導の主な内容： <ul style="list-style-type: none"> 入院患者から無作為抽出による外部委託による説明書・承諾書点検および看護師同席率確認を6月と12月に実施(平成29年度 600×2=1200件)した。 	
<p>⑤ 診療録等の管理に関する責任者の選任状況</p>	<p>有</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・診療録等の記載内容の確認、及び指導の主な内容： <ul style="list-style-type: none"> 診療録については、「福島県立医科大学附属病院診療録管理要綱」において、診療録の管理責任者を医療情報部長とし、管理方法を定め適切な管理を行っている。 福島県立医科大学附属病院診療録作成指針を定め、これに沿った記載内容となっているかを、診療情報管理士(委託職員)が監査し、監査の結果不備があった内容を各診療科へ通知し、医師による修正を行っている。 また、診療録管理委員会において不備な点の改善について協議するとともに、診療科部長に対し通知し、適切な記載についての指導・周知を行っている。 	
<p>⑥ 医療安全管理部門の設置状況</p>	<p>有</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・所属職員：専従(9)名、専任(0)名、兼任(16)名 <ul style="list-style-type: none"> うち医師：専従(1)名、専任(0)名、兼任(7)名 うち薬剤師：専従(1)名、専任(0)名、兼任(2)名 うち看護師：専従(2)名、専任(0)名、兼任(6)名 (注) 報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること ・活動の主な内容： <ol style="list-style-type: none"> 1 医療事故防止対策委員会及び同設置要綱に規定する各種委員会等の運営に関する事 2 医療事故防止マニュアルの改訂に関する事 3 インシデント情報の収集・整理に関する事 4 院内巡回に関する事 5 医療安全研修会に関する事 6 医療安全相談に関する事 7 褥瘡対策に関する事 8 院内死亡事例の調査に関する事 9 内部通報窓口に関する事 10 インフォームド・コンセントの適切な運用に関する事 11 有害事象が発生した場合における診療録その他の診療に関する記録の確認に関する事 	

- 1 2 前号に係る患者又はその家族への説明、当該事象の発生原因の究明の実施その他の対応の状況の確認及び当該確認の結果に基づく職員への必要な指導に関すること
- 1 3 医療安全に係る連絡調整に関すること
- 1 4 医療安全の確保のための対策の推進に関すること
- 1 5 医療安全に資する診療内容のモニタリングに関すること
- 1 6 医療安全に関する職員の意識の向上の状況確認に関すること
- 1 7 その他医療安全に必要な業務に関すること

※ 平成二八年改正省令附則第四条第一項及び第二項の規定の適用を受ける場合には、専任の医療に係る安全管理を行う者が基準を満たしていることについて説明すること。
 ※ 医療安全管理委員会において定める医療安全に資する診療内容及び従事者の医療安全の認識についての平時からのモニタリングの具体例についても記載すること。

⑦ 高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の状況

- ・前年度の高難度新規医療技術を用いた医療の申請件数（6件）、及び許可件数（6件）
- ・高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の設置の有無（有）
- ・高難度新規医療技術を用いた医療を提供する場合に、従業者が遵守すべき事項及び高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程の作成の有無（有）
- ・活動の主な内容：
 該当案件については、担当部門である「高度管理医療機器・高難度新規医療技術評価室」が診療科より申請を受けることとしている。申請があった場合には、高度管理医療機器・高難度新規医療技術評価委員会を開催し、その意見を踏まえ当該医療技術の提供の適否等について決定している。
 当該医療技術の提供後には、診療科に報告を求め、申請内容や委員会の意見に沿って適切に提供されているか担当部門が確認している。
 平成29年4月から平成30年3月の間に5回の委員会を開催し、6件の申請案件について審議した。
- ・規程に定められた事項の遵守状況の確認の有無（有）
- ・高難度新規医療技術評価委員会の設置の有無（有）

⑧ 未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の状況

- ・前年度の未承認新規医薬品等を用いた医療の申請件数（4件）、及び許可件数（4件）
- ・未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の設置の有無（有）
- ・未承認新規医薬品等を用いた医療を提供する場合に、従業者が遵守すべき事項及び未承認新規医薬品等の使用条件を定め使用の適否等を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程の作成の有無（有）
- ・活動の主な内容：
 該当案件については、担当部門である「未承認医薬品評価室」が診療科より申請を受けることとしている。申請があった場合には、未承認医薬品評価委員会を開催し、その意見をもとに当該医薬品の使用の適否等について決定している。
 当該医薬品の使用後には、診療科に報告を求め、申請内容や委員会の意見に沿って適切に提供されているか確認することとしている。
 平成29年4月から平成30年3月の間に4回の委員会を開催し、4件の申請案件について審議した。

- ・ 規程に定められた事項の遵守状況の確認の有無 (有)
- ・ 未承認新規医薬品等評価委員会の設置の有無 (有)

⑨ 入院患者が死亡した場合などの医療安全管理部門への報告状況

- ・ 入院患者が死亡した場合の医療安全管理部門への報告状況：年 3 2 2 件
- ・ 上記に掲げる場合以外の場合であって、通常の経過では必要がない処置又は治療が必要になったものとして特定機能病院の管理者が定める水準以上の事象が発生したとき当該事象の発生の実態及び発生前の状況に関する医療安全管理部門への報告状況：年 8 9 件
- ・ 上記に関する医療安全管理委員会の活動の主な内容
 毎月の死亡事例に対し医療安全管理部長・副部長の医師がカルテ・死亡診断書・サマリー等を調査する。判断に迷う場合等は医療安全管理部内で協議し、必要に応じて当該診療科・医療事故防止対策委員等の意見を参考にする。医療事故に該当する疑いがあると判断された場合は、当該科に医療クオリティ審議依頼書を提出させる。調査結果は、翌月の医療事故防止対策委員会にて報告する。

⑩ 他の特定機能病院等の管理者と連携した相互立入り及び技術的助言の実施状況

- ・ 他の特定機能病院等への立入り (有 (病院名：日本大学医学部附属板橋病院))
 - ・ 他の特定機能病院等からの立入り受入れ (有 (病院名：日本大学医学部附属板橋病院))
 - ・ 技術的助言の実施状況
- 1 「不具合事象等の報告基準について、今後基準を設け、明記と周知が必要である」との助言を受け、医療事故レベル 0~3a はインシデントとして、3b 以上はアクシデントとして医療安全管理部へ報告するよう基準が整備されているので、これに基づき報告するよう周知徹底を図ることとした。
 - 2 「医療安全管理指針やポケットマニュアル等の更新は 2 年毎であるとのことだが、随時の変更が必要である」との助言を受け、各種規程・指針等についてはこれまで同様随時更新すること、また、ポケットマニュアルについては、今後毎年度改訂することとした。
 - 3 「研修医スペースにおいてインターネットに接続可能な研修医の持ち込みパソコンが多数配置されていたが、管理体制に不安を感じたため、院内で使用するパソコンの使用基準等が必要である」との助言を受け、本院で持ち込みパソコンに関して、新採用時オリエンテーションにおいて情報セキュリティに関する各種規程等の指導をしているが、不備のあるパソコンがあるので所定の手続きを徹底することとした。また、医療安全管理部が主催する研修医対象の研修会においても、個人情報漏洩防止に向けた対策を周知することとした。

⑪ 当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況

- ・ 体制の確保状況
 「病院の患者等相談等受付要領」に従い、患者からの医療安全に関すること・医療事故に関する相談を受け付ける。また、医療連携・相談室で受けた患者からの相談に対して医療安全に関する対応が必要と判断された場合は、医療安全管理部に連絡をいただき、審議が必要な場合は医療クオリティ審議のうえ、結果を患者・家族に報告する。
 相談内容と対応については、医療事故防止対策委員会で報告する。

⑫ 職員研修の実施状況

・研修の実施状況

【医療安全管理部】

職員の安全に対する意識、安全に業務を遂行するための技能やチームの一員としての意識向上を図るため、全職員を対象に下記の研修を実施した。

- 1 外部講師（独立行政法人医薬品医療機器総合機構）による医薬品副作用被害救済制度に関する講話
- 2 医療安全、感染対策、医薬品、医療機器、災害医療に関すること（年2回）
- 3 死因究明からみた医療の安全について

【感染制御部】

平成29年度全24回実施し、週3日以上勤務している全職員の2回以上受講を確認。

【薬剤部】

平成29年6月27日

医療安全管理研修会「医薬品副作用被害救済制度」

参加人数 1,841人

平成30年3月7日、3月8日

医療安全管理合同研修会「薬剤に関すること」

参加人数 1,758人

【臨床工学センター】

医療機器新規導入時研修148回、医療機器定期研修98回実施

(注) 前年度の実績を記載すること（⑥の医師等の所属職員の配置状況については提出年度の10月1日の員数を記入すること）

⑬ 管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者のための研修の実施状況（病院経営課）

・研修の実施状況

【医療安全管理部（各管理責任者）】

齋藤 清（病院管理者）

研修名 平成29年度第4回 特定機能病院管理者研修

期間 平成30年2月21日～2月22日

主催者 公益財団法人 日本医療機能評価機構

石龍 鉄樹（医療安全管理責任者）

研修名 平成29年度第3回 特定機能病院管理者研修

期間 平成30年1月9日～1月10日

主催者 公益財団法人 日本医療機能評価機構

和泉 啓司郎（医薬品安全管理責任者）

研修名 平成29年度第4回 特定機能病院管理者研修

期間 平成30年2月21日～2月22日

主催者 公益財団法人 日本医療機能評価機構

横山 斉（医療機器安全管理責任者）

研修名 平成29年度第1回 特定機能病院管理者研修

期間 平成29年11月14日～11月15日

主催者 公益財団法人 日本医療機能評価機構

【薬剤部（医薬品安全管理責任者）】

平成 29 年 6 月 30 日

平成 29 年度 日本病院薬剤師会医薬品安全管理責任者講習会（一般社団法人 日本病院薬剤師会）

(注) 前年度の実績を記載すること (⑥の医師等の所属職員の配置状況については提出年度の10月1日の員数を記入すること)

規則第7条の2第1項各号に掲げる管理者の資質及び能力に関する基準

<p>管理者に必要な資質及び能力に関する基準</p> <ul style="list-style-type: none"> 基準の主な内容 <p>現在作成準備中 次期選任時期を考慮して作成準備（平成31年1月1日まで作成予定）</p> <ul style="list-style-type: none"> 基準に係る内部規程の公表の有無（有・無） 公表の方法
--

規則第7条の3第1項各号に掲げる管理者の選任を行う委員会の設置及び運営状況

前年度における管理者の選考の実施の有無	無			
<p>※ 次期選任時期を考慮して選任準備中（平成31年1月1日まで規定等作成予定）</p> <ul style="list-style-type: none"> 選考を実施した場合、委員会の設置の有無（有・無） 選考を実施した場合、委員名簿、委員の経歴及び選定理由の公表の有無（有・無） 選考を実施した場合、管理者の選考結果、選考過程及び選考理由の公表の有無（有・無） 公表の方法 				
管理者の選任を行う委員会の委員名簿及び選定理由				
氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	特別の関係
				有・無
				有・無
				有・無
				有・無

規則第9条の23第1項及び第2項に掲げる病院の管理及び運営を行うための合議体の設置及び運営状況

合議体の設置の有無		有	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 合議体の主要な審議内容 病院の運営方針、中期計画、予算及び決算、その他病院の経営計画、運営管理の調整・協議 ・ 審議の概要の従業者への周知状況 院内イントラネットにて周知 ・ 合議体に係る内部規程の公表の有無（ 無 ） ・ 公表の方法 ・ 外部有識者からの意見聴取の有無（ 有 ） 			
合議体の委員名簿			
氏名	委員長 (○を付す)	職種	役職
齋藤 清	○	医師	病院長
鈴木 弘行		医師	副病院長
佐治 重衡		医師	副病院長
鈴木 義行		医師	副病院長
大竹 徹		医師	副病院長
目黒 文子		看護師	副病院長
和泉 啓司郎		薬剤師	薬剤部長
菅井 敏美		事務職	事務局次長（業務）
菊地 健一		その他（外部）	法人理事（経営担当）

規則第15条の4第1項第1号に掲げる管理者が有する権限に関する状況

管理者が有する病院の管理及び運営に必要な権限

- ・ 管理者が有する権限に係る内部規程の公表の有無（ 無 ）
- ・ 公表の方法

- ・ 規程の主な内容
病院の経営に関すること
病院の管理運営に関すること
病院の人事に関すること
病院の予算案の作成及び執行に関すること

- ・ 管理者をサポートする体制（副院長、院長補佐、企画スタッフ等）及び当該職員の役割
各担当の副院長が管理者の職務を補佐する
副院長は5名体制（以下の担当に分かれる）
 - (1) 総務・企画・地域連携に関すること
 - (2) 教育・研修に関すること
 - (3) 中央診療施設の機能強化及び医療情報に関すること
 - (4) 安全管理・感染制御・事故防止・質管理・災害医療・病院機能再編に関すること
 - (5) 患者サービス・病院機能改善に関することその他、法人理事（経営担当）を病院の管理及び運営を行うための合議体に参画させ、意見等の聴取を行っている。

- ・ 病院のマネジメントを担う人員についての人事・研修の状況
院内に「運営・管理部」を設置し、院内及び外部の専門研修等に参加させ、職員の育成に努めている。

規則第15条の4第1項第2号に掲げる医療の安全の確保に関する監査委員会に関する状況

監査委員会の設置状況	有				
<ul style="list-style-type: none"> ・ 監査委員会の開催状況：年2回 ・ 活動の主な内容： <ul style="list-style-type: none"> 病院の業務状況について管理者等から外部委員へ報告し、委員が意見を述べること。 業務等についてどのように行われているのか現場確認を行うこと。 ・ 監査委員会の業務実施結果の公表の有無（有） ・ 委員名簿の公表の有無（有） ・ 委員の選定理由の公表の有無（有） ・ 監査委員会に係る内部規程の公表の有無（有） ・ 公表の方法： 病院ホームページにおいて公表 					
監査委員会の委員名簿及び選定理由（注）					
氏名	所属	委員長 （○を付す）	選定理由	利害関係	委員の要件 該当状況
佐藤 武寿	福島県医師会	○	下記参照	無	1
田中 明	国立大学法人福島大学			無	2
渡辺慎太郎	弁護士			無	1
委員の選定理由 佐藤 武寿 委員：医療に係る安全管理に関する識見を有する者 田中 明 委員：医療を受ける者、その他医療従事者以外の者 渡辺慎太郎 委員：法律に関する識見を有する者					

- (注) 「委員の要件該当状況」の欄は、次の1~3のいずれかを記載すること。
1. 医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者
 2. 医療を受ける者その他の医療従事者以外の者（1.に掲げる者を除く。）
 3. その他

規則第15条の4第1項第3号イに掲げる管理者の業務の執行が法令に適合することを確保するための体制の整備に係る措置

管理者の業務が法令に適合することを確保するための体制の整備状況

・体制の整備状況及び活動内容

平成18年4月1日に監査室を設置するとともに、監事監査及び内部監査を実施している。

- ・ 専門部署の設置の有無（有）
- ・ 内部規程の整備の有無（有）
- ・ 内部規程の公表の有無（無）
- ・ 公表の方法 法人ホームページでの掲載予定。

規則第15条の4第1項第3号口に掲げる開設者による業務の監督に係る体制の整備に係る措置

開設者又は理事会等による病院の業務の監督に係る体制の状況			
<ul style="list-style-type: none"> ・ 病院の管理運営状況を監督する会議体の体制及び運営状況 役員会において病院の管理運営状況を監督している。 月1回実施し、病院の月次決算を報告しているほか、 予算・決算、組織・人事及び医療事故等については随時報告している。 ・ 会議体の実施状況（ 年12回 ） ・ 会議体への管理者の参画の有無および回数（ 有 ）（ 年12回 ） ・ 会議体に係る内部規程の公表の有無（ 有 ） ・ 公表の方法 ホームページにおいて公表 			
病院の管理運営状況を監督する会議体の名称： ー			
会議体の委員名簿 ー			
氏名	所属	委員長 (○を付す)	利害関係
			有・無
			有・無
			有・無
			有・無

(注) 会議体の名称及び委員名簿は理事会等とは別に会議体を設置した場合に記載すること。

規則第15条の4第1項第4号に掲げる医療安全管理の適正な実施に疑義が生じた場合等の情報提供を受け付ける窓口の状況

窓口の状況
<ul style="list-style-type: none">・ 情報提供を受け付けるための窓口の設置の有無（有）・ 通報件数（年〇件）・ 窓口に提供する情報の範囲、情報提供を行った個人を識別することができないようにするための方策その他窓口の設置に関する必要な定めの有無（有）・ 窓口及びその使用方法についての従業者への周知の有無（有）・ 周知の方法 リスクマネージャー会議、医療安全ニュース、医療安全管理研修会にて周知を図っている。

(様式第 7)

専門性の高い対応を行う上での取組みに関する書類 (任意)

1 病院の機能に関する第三者による評価

① 病院の機能に関する第三者による評価の有無	有
・評価を行った機関名、評価を受けた時期 日本医療機能評価機構認定 (平成 18 年 12 月 18 日)	

(注) 医療機能に関する第三者による評価については、日本医療機能評価機構等による評価があること。

2 果たしている役割に関する情報発信

① 果たしている役割に関する情報発信の有無	有
・情報発信の方法、内容等の概要 病院ホームページ、パンフレット等で先進医療や各診療科の内容について情報の発信を行っている。また、法人として企画広報戦略本部を設置し、効果的な広報・情報発信の方法について検討を行っている。	

3 複数の診療科が連携して対応に当たる体制

① 複数の診療科が連携して対応に当たる体制の有無	有
・複数の診療科が連携して対応に当たる体制の概要 各科横断的なカンファランスが多数有 (呼吸器腫瘍カンファランス (呼吸器内科・外科、放射線科、腫瘍内科のそれぞれの医師および医療スタッフで構成) その他各科 cancer board、小児腫瘍カンファランスなど)	